

科目名 (英)	教育学 (pedagogy)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 看護師の資格を有し、臨床経験のある講師が授業を担当する。看護の対象への指導・教育技術に応用できる能力の向上が図れるよう教授していく。							
【到達目標】 人間の成長・発達に関わる教育の本質、教育学的な思考を学び、生涯にわたる主体的自己形成について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 教育の本質 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 教育制度と内容 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 教育の制度と内容 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 教育の方法と評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 教育の方法と評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 生涯教育 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 生涯教育 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】			【評価方法について】 筆記試験60% 演習40%			
【特記事項】							

科目名 (英)	情報リテラシーⅢ (Information literacyⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 <学習内容> メール送受信におけるマナーを学ぶ、抄録の作成 アンケートの作成や結果の分析をおこない、プレゼンテーション資料にまとめる							
【到達目標】 ・社会的なマナーを守って、メールを送受信できる ・抄録を作成できる ・状況を数値化するためのアンケートを作成し、結果をもとに集計と分析をおこない、報告用のスライドを作成できる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 メールマナー 【授業形態】 講義 【到達目標】 受け取り手に好印象を与えるメールのマナーを知り、メール機能を使いこなすことができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 Word応用(抄録作成) 【授業形態】 講義 【到達目標】 抄録作成における必要な操作ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 アンケート作成 【授業形態】 講義 【到達目標】 Wordのさまざまな機能を使って、アンケート依頼文とアンケート用紙を作成できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 プレゼンテーション応用A 【授業形態】 講義 【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 プレゼンテーション応用B 【授業形態】 講義 【到達目標】 効果的なグラフの作成方法を理解し、活用できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 プレゼンテーション基礎2-3 【授業形態】 講義 【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解の作成とスライド内で表や図表を効果的に活用できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 プレゼンテーション試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 プレゼンテーション応用で習ったことを実践できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 プレゼンテーション試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 修了認定試験 PowerPointスライド作成			【評価について】			
【特記事項】							

科目名 (英)	英語Ⅲ (English Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 日本航空株式会社国際客室乗員部に32年間在籍の経験から日常の英語に精通しており、また西武文理大学准教授時代に英語を教授していた経験がある講師が授業を担当する。現代では英語はグローバルな社会を形成していく上で不可欠であると考え。特に日本においてもあらゆる分野で国際化が進み「英語」の習熟化が喫緊の課題である。							
【到達目標】 先ずは「日常英語」の理解度を高め、「ヒアリング」および「スピーキング」が円滑に行えるレベルにする。							
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナル教材				【授業外における学習】 復習と予習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 講義の目的・英語での挨拶 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 「挨拶」が状況に合わせて英語で出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 自己紹介Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各自が「挨拶」に続けて「自身の氏名」その他最低限の「英語での自己紹介」が出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 自己紹介Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 「自己紹介Ⅰ」に続けて演習する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 身体の部位の英訳 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 「身体の部位」を英語で聞き取れ、話せる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 病状の表現Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 英語での「病状」を聞き取れ、英語で表現出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 病状の表現Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 英語での「病状」を聞き取れ、英語で表現出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 患者様対応 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 患者様から英語で「病状」を訴えられた際に聞き取れ、英語で対応が出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 学則の評価基準に準ずる		
【特記事項】							

科目名 (英)	人間関係論Ⅲ(手話) (Sign language introductory course)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 日本手話ネイティブサイナーであり、地域でろうあ運動などに関わってきたろう教員が、手話表現などについて演習、講義を交えながら指導する。そして、ろう者および手話に関する知識、障害者基本法によって「手話言語」に規定された手話の歴史、手話をとりまく環境などについて理解することにより、ろう者しいては障害者全般に理解のある看護師になってほしい。							
【到達目標】 1.手話で簡単な会話(コミュニケーション)ができる。 2.手話の特徴および歴史を理解する。 3.手話およびろう者(聴覚障害者)を取り巻く環境を理解する。 4.聴覚障害によって引き起こされる問題点について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 日本手話テキスト初級(江戸川ろう者協会発行のを編集)				【授業外における学習】 授業で習得した知識をもとに、NHKの「わたしたちの手話」「手話ニュース」などをみて手話に親しんでほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 手話とは／名前、挨拶に関する表現 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 自分の名前および友人の名前の表現および挨拶ができるようになる。 言語としての手話に関する基礎知識を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ろう者の生活／指文字、数、色の表現 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 指文字、数および色の表現ができるようになる。 一般的なろう者はどのような生活をしているかについて理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 手話の歴史／人物、家族に関する表現 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人物、家族に関する表現ができるようになる。また、第一・二回のとあわせて長文が表せるようになる。 手話を取り巻いてきた歴史について理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 自己紹介に関する表現／疑問文 【授業形態】 演習 【到達目標】 自己紹介ができるようになる。 Y/N疑問文(答えがYesかNoになる質問)と、WH疑問文(答えが不定になる質問)の違いを理解し、きちんと表せるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 趣味、スポーツに関する表現 【授業形態】 演習 【到達目標】 趣味およびスポーツに関する表現ができるようになる。そして趣味などを交えた自己紹介および質問ができるようになる。 聞こえないことによって引き起こされる問題について理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 聴覚障害問題／一日のタイムテーブルに関する表現 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 一日のスケジュールについて表現ができるようになる。また、諸質問ができるようになる。 聞こえないことによって引き起こされる問題について理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 怪我、病気に関する表現 【授業形態】 演習 【到達目標】 怪我や病気に関する基本的な単語の表現ができるようになる。 問診を想定して簡単な質問ができるようになる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
試験	【授業単元】 まとめ、修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 第一回から第七回まで学習してきたことを振り返る。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。教師が手話表現した単語および短文を読み取って筆記解答する。また授業で学んできた知識の理解度についても確認する。読み取り60点、知識40点、合計100点満点で評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床薬理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日
【授業の学習内容と心構え】 本校で東洋医学を学び、卒業後ドラッグストアの現場で医薬品販売の職に就き、生活者のセルフメディケーションを支援してきた教員が、東洋医学的な疾病への考え方の授業を行う。また、気象予報士でもあることから、気象現象が身体に及ぼす影響についての授業を行います。患者の日々の些細な変化にも気づけるような看護師を目指して欲しい。							
【到達目標】 漢方薬(東洋医学)の概念を理解し、漢方薬が生体に及ぼす諸作用、薬物の吸収及び排泄作用を理解することが出来る。 治療薬の使用上で、看護師として観察すべき重要点を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 漢方について(東洋医学の考え方) 【授業形態】 講義 【到達目標】 東洋医学の考え方を知り、日本発祥の漢方薬について理解を深める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 主な漢方薬の種類と効能Ⅰ 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨床でよく処方される漢方薬について知り、主な効能効果を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 主な漢方薬の種類と効能Ⅱ 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨床でよく処方される漢方薬について知り、主な効能効果を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 東洋医学の活用方法 【授業形態】 講義 【到達目標】 東洋医学の活用方法を知り、QOLの向上に貢献出来るようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 生薬と漢方薬の雑学 【授業形態】 講義 【到達目標】 漢方薬の原料となる生薬について、その由来や効能効果、民間薬、食品の違いを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 生気象学概論Ⅰ 【授業形態】 講義 【到達目標】 気象現象が身体に及ぼす影響を知ること、患者の容体の変化を予測できる知識を身につける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 生気象学概論Ⅱ 【授業形態】 講義 【到達目標】 気象現象が身体に及ぼす影響を知ること、患者の容体の変化を予測できる知識を身につける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 修了認定試験(100点満点)で評価する 評価は学則に準ずる		
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅱ（皮膚） (dermatology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	7時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 長きにわたり皮膚科の診療にあたってきた医師が教授する。皮膚の正常構造と機能を3次元的に理解することで、皮膚症状の重症度を認識しやすくなるよう講義を行います。次に細菌感染症、浅在性真菌症、ウイルス感染症、疥癬などの感染症、熱傷などの物理的皮膚疾患、湿疹皮膚炎(主にアトピー性皮膚炎)など、皮膚のcommon diseaseを視覚的に記憶できるように臨床スライドを複数提示します。教科書の内容を理解しやすくするように重要なポイントを示します。臨床現場で看護師として皮膚を観察する機会が多いので、スタートラインに立つ前に授業内容を記憶にとどめ、役立てていただきたい。							
【到達目標】 皮膚のcommon diseaseを視覚的に認識し、好発部位を理解、重症度を把握できるようにする。重症度は病変の深さを反映する点を理解する。代表的な皮膚疾患を学ぶことで検査方法、治療方法も体系的に習熟する。							
【使用教科書・教材・参考書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫				【授業外における学習】 病院における実習の場面で授業で学んだ内容を参考に皮膚を観察し、問題点を見つけ、看護に反映する必要があるかどうか看護師に質問できるようにする			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 皮膚症状と病態生理、主な検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 皮膚の正常構造を説明できるようにする。皮膚のバリアー機能を中心に理解できるようにする。細菌や真菌等の有無に関して検査手法や目的を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 1)皮膚感染症(細菌、ウイルス、真菌など) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ヒトの皮膚には常在細菌、常在酵母などが複数存在することを理解しつつ、外から侵入することで病原性を示すことがある点を認識する。表皮に侵入しやすいウイルスの存在を理解する。患者さん間の感染性を認識することでガウン着用の必要性等を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 2)熱傷 3)アトピー性皮膚炎 【授業形態】 講義 【到達目標】 熱傷の深さから皮膚の治療過程を理解する。熱傷に対する治療を学ぶ上で皮膚科処置の必要性や方法を視覚的に理解する。アトピー性皮膚炎の病態と治療を学ぶことで、外用療法や全身療法(内服、注射、紫外線治療など)などのアプローチ方法を認識する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 3回の授業および教科書学習を経て、設問に回答し皮膚疾患の理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 筆記試験で行う。		
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学II (眼) (Ophthalmology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	8時間 (1)	開講区分	前期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 渋谷区で開業している眼科医が授業を担当する。他科ドクター向けの教科書を出すなど、自分の専門領域を説明するのを得意とする。眼科に初めて勤務する看護師向けの教科書も出している。本授業ではどこの眼科でも行う検査、代表的な疾患について解説する。							
【到達目標】 眼球およびその付属器の構造を理解し、基本的な眼科検査にどのようなものがあるかを知る。代表的な疾患について病態、症状、必要な検査、治療について学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回				回			
授 業 概 要				授 業 概 要			
1				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
結膜炎の種類、その病態、治療と副作用について理解する。							
2				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 白内障と老眼 【授業形態】 講義 【到達目標】 どちらも加齢現象である病態について学び、視力検査の基本的な考え、手術そして麻酔法について理解する。							
3				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 緑内障 【授業形態】 講義 【到達目標】 急性と慢性の緑内障の病態のちがいを、眼底写真、視野検査について学び、眼科領域の救急疾患について理解する。							
4				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 網膜剥離 【授業形態】 講義 【到達目標】 網膜剥離の病態と散瞳検査について理解する。最後に個々の単元で説明してきた解剖と検査についてまとめて学ぶ。							
試験				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
				【評価方法について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅱ(耳鼻咽喉)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	7時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 耳鼻咽喉科クリニック院長として診療にあたっている医師が教授する。							
【到達目標】 耳鼻咽喉疾患の症状とその病態生理が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 メディカ出版 疾患と看護⑥ 耳鼻咽喉 および配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 鼻の解剖と病態生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻腔の解剖および鼻出血、アレルギー、副鼻腔炎の症状・治療、検査が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 耳の解剖と病態生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚の解剖および難聴、中耳炎、メニエールの症状・治療、検査が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 咽頭の解剖と病態生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 咽頭の解剖および伝染性単核球症、扁桃腺炎、咽頭喉頭がんの症状・治療・検査が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】		
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅱ(歯・口腔)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Dentistry)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	8時間 (1)	開講区分	前期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】 本校の副校長であり、歯科医師として臨床現場に携わっている教員が授業を担当する。 人々の健康状態を高め生活の質を向上させることのできる看護師として必要な全身の健康と強い関連のある口腔の機能ならびに口腔疾患に関する知識を修得する。 近年、報告されるようになってきたトウースウェアや薬剤関連顎骨壊死、口腔癌について知見を得る。 ここで学んだ知識を含め多角的な視点を統合することによって、患者と家族を支えることのできる看護師育成を目指した講義内容とする。 受講する学生は、社会に貢献できる看護師を目指し意欲的に講義に参加してほしい。							
【到達目標】 歯・口腔の構造と機能を学び、口腔疾患について理解するための基礎知識を学ぶ。 全身の健康と関連の大きい二大口腔疾患であるう蝕や歯周疾患の特徴を述べるができるようになる。 近年、報告されるようになってきたトウースウェアや薬剤関連顎骨壊死、口腔癌について知見を得る。 最終的にはこれら習得した知識を統合し、広い視野を持った看護師として社会に貢献することを到達目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑥ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 株式会社メディカ出版				【授業外における学習】 返却された小テストは内容を振り返り、知識を理解、定着させておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】歯科保健 【授業形態】講 義 【到達目標】 歯科疾患の特徴と対策を述べるができる。 補綴物について例示することができる。 全身疾患と歯科疾患の関連を説明することができる。 介護予防の観点から求められる口腔機能の向上について述べるができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】歯、口腔の機能と構造/口腔の疾患① 【授業形態】講 義 【到達目標】 歯の種類、歯周組織の構造を述べるができる。 唾液腺の構造と機能を説明することができる。 摂食、嚥下の流れを具体的に述べるができる。 トウースウェアや薬剤関連顎骨壊死、口腔癌について知見を得る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】歯・口腔の疾患② 【授業形態】講 義 【到達目標】 う蝕発生のメカニズムについて説明できる。 う蝕発生要因について具体的に述べるができる。 う蝕の予防法を発生要因別に類別することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】歯・口腔の疾患③ 【授業形態】講 義 【到達目標】 歯周疾患発生のメカニズムについて説明できる。 歯周疾患発生要因について具体的に述べるができる。 歯周疾患の予防法を発生要因別に類別することができる。 歯周疾患と関連の強い全身疾患列挙することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】試験 【授業形態】修了認定試験 【到達目標】 国家試験の問題形式に慣れる。 弱点領域を認知し、克服する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 評価は筆記試験(マークシート)で行う。試験は、講義内で学習した知識の修得を確認する内容とする。		
【特記事項】 遅刻、早退、欠席のないようにする。やむを得ずそのような事態となった場合には、講義内容を同級生や配布プリントから必ず確認しておくこと。 講義時には、教科書と配布したプリントを持参すること。							

科目名 (英)	病態学Ⅴ(運動器)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	10時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】 医師の資格を有し、臨床現場に携わる講師が授業を担当する。受講生は、常に疑問を持ち、自分なりに仮説を立てて、自分自身で考えて、結論を導き出す習慣を身につけるように心掛け、授業中は、積極的に自分の言葉で自分の意見を発言すること。							
【到達目標】 1)整形外科疾患の病態を習得する。 2)整形外科疾患に対する診断法および治療法を習得する。 3)チーム医療に対応できるコミュニケーション能力を習得する。							
【参考書】 1)病気がみえる 運動器・整形外科 2)標準整形外科学				【授業外における学習】 「予習」受講生自身が、過去に罹患した整形外科疾患(一つ)について、調べておくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 骨・関節の外傷(骨折・脱臼) 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解できる						
2	【授業単元】 変形性関節症・関節リウマチ 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解できる						
3	【授業単元】 末梢神経障害・先天性疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解できる						
4	【授業単元】 脊椎疾患・骨粗鬆症 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解できる						
5	【授業単元】 骨軟部腫瘍 【授業形態】 講義 【到達目標】 単元について理解できる						
試験	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】						
					【評価について】 講義中の課題(20%)、授業参加度(20%)、定期試験(60%)との合計点で最終評価を行う。		
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅴ(リハビリテーション) (Rehabilitation)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義	総時間 (単位)	10時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】							
理学療法士として臨床経験のある講師が授業を担当する。 ①リハビリ専門職の職域・特徴を理解し、看護領域のリハビリテーション介入を理解する ②病棟看護において、多様な疾患に対応した介入が必要になる。授業を通して、それぞれの特徴を理解しながら学習を進めていく							
【到達目標】							
①リハビリテーション移送・技術について学ぶとともに、看護の役割について考察できるようになる。 ②疾患の病態を理解し、特徴に合わせた看護・訓練ができるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
配布プリント							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 リハビリテーションとは 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①リハビリテーションを理解する ②リハビリ専門職を理解する ③リハビリテーション適応者を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 リハビリテーションのテスト 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①リハビリテーション関連テストを理解するⅠ ②テストを実施出来るようになる ③結果を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①リハビリテーション関連テストを理解するⅡ ②テストを実施出来るようになる ③結果を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 脳卒中のリハビリテーション 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①脳卒中のリハビリテーションを理解する ②片麻痺の評価法を理解する ③進め方と介助法を学ぶ ④歩行・ADL(補装具を学ぶ)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 運動様式 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①運動様式を理解する(自動・他動運動) ②筋収縮様式の特徴を理解する ③病棟内介助法をリハビリテーション分野で理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅴ(脳神経) (Brain&Nerve)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	10時間 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	月曜日

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

脳神経外科専門医と指導医資格を取得しており、主たる専門領域として機能的脳神経外科で、主に脳深部刺激療法の手術および刺激調整管理を行ってきた講師が授業を担当する。日本大学医学部に所属し、教育関連業務としては、脳神経外科学、神経生理学、リハビリテーション医学の講義および臨床実習を行っている。授業にあたってはまず、学習することの喜びを伝えたい。本来脳は知識を欲しているのである。心構えとして、医療従事者になるにことへの責任とプライドをもって授業に臨んでほしい。

【到達目標】

知的で心優しい看護師となることを目標とする。基本的な脳のはたらき方を理解し、その上で病的な状態の脳についても理解する。さらには、適切な脳の使用方を理解し、受講者の学習姿勢や人生そのものが豊かとなれば望外の喜びである。もちろん最低ラインは、国家試験に合格するための十分な知識を身に着けることであるが、それに甘んじず、よりよき医療人となるべく常に切磋琢磨する習慣もつけてほしい。人間にとって最も重要な能力とは情熱を維持する能力であることを知ってほしい。

【使用教科書・教材・参考書】 脳・神経 ナーシンググラフィカ(5)-疾患と看護-	【授業外における学習】 講義で理解し、記憶をするための時間は家庭学習として確保する。したがって家庭での学習は復習中心でとくに予習は必要としない。
--	--

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【授業単元】 脳の仕組みと働き方1 【授業形態】 講義 【到達目標】 ニューロンの働きと大脳皮質の機能局在を理解する		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
2	【授業単元】 脳の仕組みと働き方2 【授業形態】 講義 【到達目標】 間脳、脳幹、小脳の機能を理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
3	【授業単元】 脳の病気1 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳神経外科疾患について理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
4	【授業単元】 脳の病気2 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳神経内科疾患について理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
5	【授業単元】 脳の病気3 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知症、てんかんについて理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【評価方法について】 学則に準ずる

【特記事項】

科目名 (英)	病態学Ⅵ(腎・泌尿器)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	10時間 (1)	開講区分	前期
【授業の学習内容と心構え】 泌尿器科医として一般病院で泌尿器科診療全般に長年従事している講師が、泌尿器科患者の看護において必要と考えられる、腎臓・泌尿器の解剖生理と疾患の病態についての正しい理解を目的とした講義を行う。							
【到達目標】 腎泌尿器系機能障害のメカニズムと主な症状が理解できる。泌尿器系障害を起こす主な疾患と治療が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
	【授業単元】 腎泌尿器系機能障害のメカニズムと主な症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎・泌尿器疾患において生じる様々な機能障害を理解する。 腎・泌尿器疾患に伴う主な症状を学び、原疾患との関連を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 腎・泌尿器における外科的疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 尿路結石の病態について理解する。 前立腺肥大症の病態について理解する。 膀胱癌・前立腺癌の病態について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 腎・泌尿器外科疾患に対する主な検査・治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎・泌尿器外科的疾患についての主な検査について理解する。 腎・泌尿器外科的疾患に対する主な手術について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 評価は筆記試験で行う。		
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅵ (女性生殖器)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	5時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 産婦人科医であり、臨床現場に携わる講師が授業を担当する。女性生殖器疾患の病態、治療について基礎知識を習得していく。							
【到達目標】 女性生殖器障害のメカニズムと主な症状が理解できる。女性生殖器障害を起こす主な疾患と治療が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回 授 業 概 要				回 授 業 概 要			
1				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 女性生殖器の解剖 【授業形態】 講義 【到達目標】 女性生殖器の解剖と基礎的な役割が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 女性生殖器の代表的な疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 膣炎 子宮筋腫 子宮頸がん 子宮体がん 卵巣腫瘍 子宮内膜症				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 女性生殖器の代表的な疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 子宮内膜症 月経障害 不妊症 更年期障害 性感染症				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
試験				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 記述式試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会福祉 (Social Welfare)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 3時限
学科・専攻	看護学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
社会福祉士として高齢者を中心に長年支援に携わってきた教員が、地域における医療と介護の連携に必要な社会福祉の基礎を習得する授業を行う。病気や障害、貧困など、様々な要因で社会的支援を必要とする人たち(要支援者)の生きる権利を守るため、多くの専門機関や専門職があり、看護師もそのひとつである。要支援者の多くは支援が必要となった要因が複合的に積み重なっており、様々な専門職が同時期に関わっていくことで課題解決を目指すことになる。このとき各専門職がバラバラに支援を展開すると、とても効率が悪い。連携して支援することを求められる。その際、どのような考えに基づいて、どの制度を活用し、どの誰と連携をとることが、よりスムーズに支援につながるのか、各専門職が理解していることが重要になってくる。本科目は、課題を発見したときや連携を求められたとき、自身の専門職としての力を十分に発揮するために必要な知識となることを念頭に取り組んでください。							
【到達目標】							
・社会福祉の基本理念や制度、社会福祉の歴史について理解する。 ・現代社会と社会福祉の関連性、医療・福祉政策のあり方について理解する。 ・支援者の連携に必要な基本的な考え方を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				予め教科書を読み、予習しておくことが望ましい。 社会福祉制度は常に変化していくので、ニュースや新聞などに触れて、世の中の動きに関心を持つことが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】「社会福祉」の捉え方を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・『社会福祉』の定義を理解する。 ・『社会保障』という用語の意味を理解する。 ・日本における『社会福祉』の位置づけを理解する。			9	【授業単元】障害者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・障害者を取り巻く状況を理解する。 ・障害者にかかわる法制度を理解する。 ・障害福祉サービスを理解する。		
2	【授業単元】社会福祉の基本理念と概念を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・生存権について理解する。 ・ノーマライゼーションの考え方を理解する。 ・リハビリテーションやエンパワメントなどの理念について理解する。 ・国際生活機能分類(ICF)について理解する。			10	【授業単元】高齢者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・高齢者を取り巻く状況を理解する。 ・高齢者にかかわる法制度を理解する。 ・介護保険制度を理解する。		
3	【授業単元】社会福祉創世の歴史について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・第2次世界大戦までの社会福祉の発展の過程を理解する。			11	【授業単元】低所得者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・低所得者を取り巻く状況を理解する。 ・生活保護制度を理解する。		
4	【授業単元】社会福祉の発展過程について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・第2次世界大戦後から福祉六法体制の確立までの社会福祉の発展の過程を理解する。			12	【授業単元】地域福祉について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・地域共生社会の実現と地域福祉について理解する。 ・地域福祉の推進組織と担い手について理解する。		
5	【授業単元】現在の社会福祉の動向について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・福祉見直し論から社会福祉基礎構造改革までの社会福祉の発展の過程を理解する。 ・社会福祉基礎構造改革以後の社会福祉の動向を理解する。 ・現在の社会福祉の動向を理解する。			13	【授業単元】医療福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・医療保険制度の概要を理解する。 ・保険診療の仕組みを理解する。 ・医療機関の機能を理解する。		
6	【授業単元】日本の社会保障制度について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・社会保障制度の体系を理解する。 ・社会保険の概要を理解する。			14	【授業単元】保健医療福祉従事者期待される役割について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・地域医療連携について理解する。 ・多職種連携の重要性を理解する。		
7	【授業単元】子ども家庭福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・少子化対策について理解する。 ・子どもにかかわる課題と対策について理解する			15	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 ・前後半講義の内容を総括する。		
8	【授業単元】中間試験 【授業形態】 【到達目標】 ・前半講義の内容を総括する。			【評価方法について】 授業で確認した、知識の理解や定着度を確認する。 中間試験（40点満点） 実施方法：4択マークシート方式 修了認定試験（60点満点） 実施方法：4択マークシート方式			
【特記事項】 授業毎にレジュメを配布しますが、教科書の図表を随時利用するので、毎回持参してください。				合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	公衆衛生 (Public health)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師であり、本校の副校長でもある教員が授業を担当する。人々の健康状態を高め生活の質を向上させることのできる看護師として必要な母子保健、高齢者保健といった分野ごとの「各論」の知識を修得し、さらには広く集団や社会の視点から健康問題に対処することのできる看護師育成を目指した講義内容とする。受講する学生は修得した知識を応用し、活用できる看護師を目指し、意欲的に講義に参加してほしい。							
【到達目標】 「総論」で公衆衛生の概念やシステムを学び、「方法論」で公衆衛生のものさしとなる疫学や保健統計の基本を修得する。さらに「各論」で母子や高齢者など属性ごと、感染症対策や歯科保健、精神保健といった分野ごと、学校保健や産業保健のような構造ごとに、それぞれの公衆衛生的な特性を理解する。最終的には、これら修得した知識を統合し、さまざまな健康問題の発生から予防できるような、広い視野を持った看護師として社会に貢献することを到達目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 株式会社メディカ出版				返却された小テストは内容を振り返り、知識を理解、定着させておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】現在の公衆衛生システムと政策 【授業形態】講 義 【到達目標】 公衆衛生の概念、現在の日本の公衆衛生システムの特徴を理解する。 わが国の公衆衛生行政制度のしくみを説明できる。			9	【授業単元】高齢者保健医療福祉 【授業形態】講 義 【到達目標】 日本の高齢化の動向を解説できる。 高齢者の保健医療に関する法律を説明できる。 高齢者の医療保健に関わる制度や施策を列挙できる。		
2	【授業単元】公衆衛生の理念・概念 【授業形態】講 義 【到達目標】 ヘルスプロモーション、およびその考え方を理解する。 「健康日本21」を説明できる。			10	【授業単元】精神保健福祉・健康危機管理と災害 【授業形態】講 義 【到達目標】 精神障害に関わるシステム・制度を説明できる。 精神保健の現況を理解する。 災害の種類を挙げることができる。 災害時の保健・医療・福祉システムを説明できる。		
3	【授業単元】公衆衛生のものさしⅠ 【授業形態】講 義 【到達目標】 健康指標の定義、特徴を理解する。 研究の方法を列挙する。 罹患率と有病率の違いを説明することができる。			11	【授業単元】感染症 【授業形態】講 義 【到達目標】 感染症に関する基礎知識を修得する。 感染症対策に関するシステムを列挙することができる。 主な感染症の特徴と近年の動向を具体的に述べることができる。		
4	【授業単元】公衆衛生のものさしⅡ 【授業形態】講 義 【到達目標】 リスクを評価する指標を用いて、リスクを把握することができる。 交絡因子の制御方法を列挙できる。 バイアスについて説明することができる。			12	【授業単元】学校保健 【授業形態】講 義 【到達目標】 学校保健の領域構造について具体的に述べることができる。 学校保健の現況について説明できる。 学校保健に関わる基本的法令について理解する。		
5	【授業単元】公衆衛生のものさしⅢ 【授業形態】講 義 【到達目標】 スクリーニングについて説明できる。 スクリーニング検査を評価する指標を計算できる。 人口動態統計について述べることができる。 人口静態統計から求められる指標を列挙できる。			13	【授業単元】産業保健 【授業形態】講 義 【到達目標】 産業保健に関する法令の概要を理解する。 産業保健の3管理について具体的に述べることができる。 職業性疾患の概要を列挙することができる。		
6	【授業単元】公衆衛生活動のプロセス 【授業形態】講 義 【到達目標】 地域保健活動について説明できる。 高リスクアプローチと集団アプローチを具体的に述べることができる。 Plan-Do-Check-Actionを説明できる。 予防の三段階を理解する。			14	【授業単元】国際保健・地球環境 【授業形態】講 義 【到達目標】 WHOによる健康課題への取り組みを説明できる。 ミレニアム開発目標を列挙できる。 持続可能な開発目標(SDGs)を解説できる。 地球環境問題について具体的に説明できる。		
7	【授業単元】日本人の健康と課題 【授業形態】講 義 【到達目標】 日本の健康問題の現状と課題について説明できる。 健康づくり対策を列挙できる。 生活習慣病、がん、自殺対策を具体的に述べることができる。			15	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】試 験 【到達目標】 国家試験の問題形式に慣れる。 弱点領域を認知し、克服する。		
8	【授業単元】親子保健 【授業形態】講 義 【到達目標】 母子保健関係法規について説明できる。 地域母子保健対策を具体的に述べることができる。 児童虐待に対する活動を理解する。			【評価について】 評価は筆記試験(マークシート)で行う。試験は、講義内で学習した知識の修得を確認する内容とする。			
【特記事項】 遅刻、早退、欠席のないようにする。やむを得ずそのような事態となった場合には、講義内容を同級生やテキスト、配布資料から必ず確認しておくこと。 講義時には、教科書と配布資料を閲覧できるように準備しておくこと。							

科目名 (英)	関係法規	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Related regulations)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	

【授業の学習内容と心構え】

本講義が扱う対象は、保健師助産師看護師法(略称: 保助看法)を始め、医師法・医療法を中心とする医事法や保健衛生法、薬務法、社会保険法、福祉法、労働法等にまで渡る、医療現場に関わる関連法規全般を扱う。しかし限られた時間内で法律の条文を逐条で記憶することは不可能なので、現場の看護臨床と法律がどのように結びつき、どのような影響を受けているのか、医療従事者としてそれにどのように向き合うべきか、といった実践的な視点から関連法規を学習できるよう工夫するつもりである。

【到達目標】

関連法規の概要を知り、それがいかに医療現場の臨床を規制しているか、全体像が理解できていること。

【使用教科書・教材・参考書】 『ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度』メディカ出版	【授業外における学習】 様々なメディアで日常的に報じられる看護関連法規に関する法改正や事件につての報道や記事などに注目することで、現実の医療現場が法律と密接に関係していることを理解してほしいと思います。
---	---

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1-1	【授業単元】 看護関係法体系の分類と理念 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①法体系の分類を述べるとともに、各分類の主な法律を二つあげられること。(P14～32) ② 医療法の理念のキーワードを三つ挙げられること。(P47～50、P55～56)	5-1	【授業単元】 場所に関する法律: 医療法、保健衛生法Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医療法、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法、高齢者住まい法の概要を理解すること。(P207～220)
1-2	【授業単元】 看護師の法的責任類型と看護過誤 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①医療安全対策にとって重要な1999年の二つの医療事故を覚えること。(P50～54) ②看護過誤の事例に触れ、法的責任の三つの類型を答えられること。(P398～407)	5-2	【授業単元】 場所に関する法律: 医療法、保健衛生法Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 感染症法、新型インフルエンザ等対策特別措置法、予防接種法、検疫法等の概要を理解すること。(P221～236)
2-1	【授業単元】 人に関する法律①: 保健師助産師看護師法Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①保助看法の目的と憲法25条の関係を理解すること。 ②チーム医療のあり方とその業務分担について概要を理解すること。(P34～46)	6-1	【授業単元】 支えるシステムに関する法律: 社会保険法、福祉法Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法等の概要を理解すること。(P237～267)
2-2	【授業単元】 人に関する法律①: 保健師助産師看護師法Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①看護師、保健師、助産師の(1)歴史的背景、(2)定義、(3)免許、(4)業務(看護師の特定行為含む)、(5)義務(助産師の開業権含む)、(6)試験について概要を理解すること。②看護師人材確保促進法について概要を理解すること。(P58～91)	6-2	【授業単元】 支えるシステムに関する法律: 社会保険法、福祉法Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 生活保護法、母体保護法、母子保健法、精神保健福祉法、障害者基本法、児童福祉法、老人福祉法等の概要を理解すること。(P267～317)
3-1	【授業単元】 人に関する法②: 医師法、歯科医師法、薬剤師法等Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医師、歯科医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士、言語聴覚士、歯科衛生士、歯科技工士の概要を理解すること。(P91～160)	7-1	【授業単元】 政策に関する法律: 社会保障関連法・労働法・環境法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医療政策、福祉政策、災害政策、情報政策、食品安全政策、人口政策、社会的弱者政策、労働政策、女性政策、環境政策に関する法律の概要を理解すること。(P318～388)
3-2	【授業単元】 人に関する法②: 医師法、歯科医師法、薬剤師法等Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、栄養士、公認心理士の概要を理解すること。(P160～179)	7-2	【授業単元】 看護倫理と生命倫理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①生命倫理の基本原則、基本的人権の擁護、研究倫理等の概要を理解すること。(P408～425) ②インフォームドコンセントの概要を理解すること。(P390～397)
4-1	【授業単元】 物に関する法律: 薬務法、臓器移植法等Ⅰ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医薬品医療機器等法(薬機法)、麻薬及び向精神薬取締法等の概要を理解する。(P180～191)	試験	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 学習したすべての単元を振り返り、各到達目標に関する問いに回答できること。
4-2	【授業単元】 物に関する法律: 薬務法、臓器移植法等Ⅱ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臓器移植法、血液法、造血幹細胞提供推進法等の概要を理解すること。(P192～207)	【評価について】	各単元の理解度を確認するための修了認定試験の結果(100点満点)と出席率を勘案して総合評価する。特別な理由のない限り、講義1回欠席することにより定期試験の結果から5点減点とするものとする。

【特記事項】

科目名 (英)	看護研究Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 『病院経営』、『看護部マネジメント』の編集長として、多くの原稿の推敲を手掛け、執筆者の育成に力を注ぐ。また、医療ジャーナリストとして、「厚生労働省」、「日本看護協会」、「全国老人保険施設協会」、全国の病院を取材し。「日本認知症グループホーム協会」の機関誌を編集。さらに、全国の病院、介護老人保健施設、認知症グループホームで、論文の書き方研修を行う。「看護研究」の授業は、受講する看護学生が自らが目指す看護の専門性を追究し、研究にいい取り組む態度と、研究の具体的手法を学ぶことを目標としている。							
【到達目標】 ①看護研究とは何かを理解し、その手法を理解する。 ②自らが探究する看護研究テーマに沿って、看護計画、看護研究、論文作成、までの道筋を理解する。 ③授業を、創造性を持って看護に取り組む第一歩とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 『楽しくできる、分かりやすい看護研究論文の書き方』				【授業外における学習】 課題原稿の作成			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 看護研究とは何か。研究の出発点は、まず疑問を持つこと 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①看護の職域を理解する、②看護の領域を理解する ③看護研究のテーマ設定とは何かが分かる ④看護研究に取り組む姿勢が醸成できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 看護研究の計画書作成のポイント 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①計画書の必要性が理解できる ②計画書に書くべきことが考えられる ③看護研究テーマの設定する方法が分かる ④看護研究のテーマの設定の仕方が分かる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 看護研究の方法を考える 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①対象者の条件を考えることができる ②研究方法の種類を理解できる ③調査・統計処理を理解できる ④引用文献・参考文献の活用方法が分かる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 ケーススタディ・看護研究のまとめ方 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①ケーススタディの種類が分かる ②テーマと研究目的の書き方が分かる ③事例紹介を理解している ④結果と結論の違いが分かる ⑤「終わりに」の書き方が分かる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 論文の書き方 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①基本の文書が書ける ②正しい句読点の付け方が分かる③研究論文の構成が理解できる ④文献の表示の仕方が具体的に分かる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	プレゼンテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①プレゼンテーションのポイントが分かる ②抄録作成の方法を理解している ③発表原稿とパワーポイントの作り方が分かる ④発表を効果的行うことができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 総括 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①看護研究のテーマに沿って、研究を進めるイメージができている ②創造性を持って、看護に当たることができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】			【評価方法について】			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床看護総論 (clinical nursing general remarks)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し臨床経験のある教員が授業を担当する。看護師には、様々な場面で状況を観察・判断し、対象に応じた迅速かつ適切な看護を実践する能力が求められる。本単元では、既習科目である「解剖生理学」および「病態学」での知識を活用して、臨床で遭遇しやすい症状のメカニズムとその看護について理解を深める。その上で、臨床判断の思考プロセスについて学習し、対象の状態に応じた看護介入（行為）を行うための基礎力の習得を目指す。							
【到達目標】 1)臨床で遭遇しやすい症状と臨床判断について理解できる 2)臨床で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断のプロセスを思考できる 3)事例を通して臨床判断に基づいた行動が選択できる 4)本単元での学びを通して、自身の課題を明確にすることができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 臨床看護総論				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にして参加する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 看護師の臨床推論・臨床判断 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 看護における臨床推論・臨床判断が理解できる 1)看護師が活動する領域と場 2)看護師の臨床推論と臨床判断 3)臨床推論・臨床判断・看護過程の関係性			9	【授業単元】 一次救命処置の理解深化 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 一次救命処置のアルゴリズムを理解し、正しく実施できる 1)BLSアルゴリズムの理解深化 2)BLSの実際		
2	【授業単元】 臨床判断の思考プロセス 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 看護における臨床判断プロセスが理解できる 1)臨床判断モデルを用いた臨床判断プロセス 「気づき」「解釈」「反応」「省察」 2)気づくトレーニング、他者の気づきと新たな発見			10	【授業単元】 事例を用いた臨床判断と看護① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断のプロセスが思考できる 1)事例を用いた臨床判断の思考と行為の具体化 2)他者の気づきと新たな発見		
3	【授業単元】 症状別臨床判断と看護(呼吸困難) 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸困難の症状・看護が理解できる メカニズム、随伴症状、検査判断基準、治療、看護の視点			11	【授業単元】 事例を用いた臨床判断と看護② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断のプロセスが思考できる 1)事例を用いた臨床判断の思考と行為の具体化 2)他者の気づきと新たな発見		
4	【授業単元】 症状別臨床判断と看護(発熱) 【授業形態】 講義 【到達目標】 発熱の症状・看護が理解できる メカニズム、随伴症状、検査判断基準、治療、看護の視点			12	【授業単元】 事例を用いた臨床判断と看護の実際 【授業形態】 演習 【到達目標】 事例を通して臨床判断に基づいた行動が選択できる 1)事例を用いた臨床判断の思考と行為の実践 2)実践後のデブリーフィング		
5	【授業単元】 症状別臨床判断と看護(浮腫・貧血) 【授業形態】 講義 【到達目標】 浮腫、貧血の症状・看護が理解できる メカニズム、随伴症状、検査判断基準、治療、看護の視点			13	【授業単元】 事例を用いた臨床判断と看護の実際 【授業形態】 演習 【到達目標】 事例を通して臨床判断に基づいた行動が選択できる 1)事例を用いた臨床判断の思考と行為の実践 2)実践後のデブリーフィング		
6	【授業単元】 上級救命講習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 救急時の対応ができる ・心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の使用方法、異物除去法・出血時の止血法、傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法			14	【授業単元】 臨床判断に必要な資質・能力と自身の課題 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床看護における自身の課題を明確にすることができる 1)看護実践に必要な資質・能力の抽出・分類・整理 2)臨床での看護実践に向けた課題の明確化		
7	【授業単元】 上級救命講習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 救急時の対応ができる ・心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の使用方法、異物除去法・出血時の止血法、傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法			15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 上級救命講習 【授業形態】 演習 【到達目標】 救急時の対応ができる ・心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の使用方法、異物除去法・出血時の止血法、傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法			【評価について】 科目終了後、筆記試験を実施する。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	地域・在宅看護学概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 3時限
学科・専攻	看護学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 看護師として大学病院に勤務後、看護基礎教育に従事し後半は副学校長として学校管理も担う。職場(病院・学校)の所在地が日本の訪問看護の草分け的な地域(新宿区)という特性から、看護学基礎教育カリキュラムの科目創設前から、施設側の協力を得て本学教育カリキュラムに訪問看護実習を取り入れた。学生と共にフィールド活動を実践し、平成8年創設の科目「在宅看護論」の教育開発時はその経験とネットワークを活かした。さらに自身はこの領域での研・学会発表、書籍の執筆等を行い、複数の看護基礎教育機関での授業や教師の現任教育にも関わった。 研究テーマは、退院支援に関することであり、それぞれの経験を本科目領域についての教授活動に活かす。 超高齢社会の到来と保健医療福祉政策の転換とともに重要性が増している地域・在宅ケアである。地域社会や人々の生活の理解を前提に看護者としてさらに病氣や障害で療養している人々の健康上の問題と生活への影響を踏まえ、療養者や家族が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくために必要な地域・在宅看護の基礎知識を社会の動向や保健医療福祉の動向も踏まえて学習する。今後、誰もが年齢を重ねつつ体験しなければならない課題であり、自身の問題として主体的に考えながら学んで欲しい。							
【到達目標】 1. 訪問看護における看護の役割を理解する。 2. 医療機関との連携について理解する。 3. 地域包括ケアシステムの意義と看護職の役割を理解する。 4. 在宅ケアの基盤となる制度を理解する。 5. 療養者の権利擁護と訪問看護師の倫理的態度について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② メディカ出版 授業時別途資料の配布や随時参考文献の紹介を行う				≪予習≫講義テーマに関連するテキストの該当ページをよく読んで、不明点を書き出しておくなどして、授業中に解決できるようにする。質問も積極的に。 ≪復習≫講義で配布した資料やテキストを必ず読み返しておくこと。 課題学習を課すこともあり。※フィールドワーク「なごみの家」			
回 授 業 概 要				回 授 業 概 要			
【授業単元】訪問看護制度の概要 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 1 ・訪問看護制度の変遷と現状について学ぶ。 ・訪問看護制度の法的枠組みを理解する。				【授業単元】地域・在宅ケアの基盤となる制度 【授業形態】講義 【到達目標】 9 地域・在宅ケアの基盤となる制度を理解する。 ・医療保険制度 ・介護保険制度 ・障害者支援に関する制度 ・高齢者虐待防止に関する法律			
【授業単元】訪問看護制度の概要 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 2 ・訪問看護の制度(介護保険と医療保険の違い)を理解する。 ・訪問看護ステーションの経営と管理について学ぶ。				【授業単元】在宅療養を支える制度と社会資源 【授業形態】講義 【到達目標】 10 在宅療養を支える制度と社会資源について学ぶ。 ・社会資源の概念 ・社会資源の実際とサービス			
【授業単元】地域・在宅看護の提供方法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 3 地域・在宅看護を提供する場(施設)と方法を理解する。 ・訪問看護(自宅・施設) ・通所施設(デイサービス) ・病院外来				【授業単元】在宅療養を支える制度と社会資源 【授業形態】演習 【到達目標】 11 ・社会資源の実際とサービスの内容について調べ学習を行い理解する。 ・対象事例に対して活用できる社会資源について検討する。			
【授業単元】訪問看護の実際 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 4 訪問看護の提供の実際について理解する。 ・訪問看護サービスの仕組みと提供 ・訪問看護介入時期別の特徴 ・訪問看護の役割、マナー				【授業単元】家族の機能と役割の理解 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 12 現代の家族の機能と構造や役割を学ぶ。 ・家族をめぐる社会状況の変化 ・家族を理解するための基礎理論			
【授業単元】医療機関との連携、多職種連携と協働 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 5 医療機関と在宅看護との連携、多職種連携について理解する。 ・退院調整・退院支援 ・地域連携バス ・多職種との連携と協働				【授業単元】家族への支援、療養者・家族の権利擁護 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 13 在宅療養を支える家族への看護について理解する。 ・療養者を支える家族の特徴 ・家族への支援 ・訪問看護師に求められる姿勢・倫理的態度			
【授業単元】地域包括ケアシステムとチームケア 【授業形態】講義 【到達目標】 6 ・在宅におけるチームケアの意義を理解する。 ・在宅ケアシステムの体制について理解する。				【授業単元】地域アセスメントの実際 【授業形態】演習 【到達目標】 14 ・自身で決定した地域について地域アセスメントを行い、看護の役割について考えてみる			
【授業単元】地域包括ケアシステム 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 7 ・地域包括ケアと看護の役割二ツテ理解する。 ・地域ケアの基盤となる資源について学ぶ。 ・地域包括支援センターのしくみと役割を学ぶ。				15 修了試験			
【授業単元】ケアマネジメント 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 8 ・ケアマネジメントの概念を理解する。 ・ケアマネジメントの実際について理解する。				【評価方法について】 評価は、筆記試験60%、提出レポート40%の配点で行う。 筆記試験では、授業内で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。本領域の特徴として、課題の本質や専門職としての役割等に気づき考えながら学んで欲しいので、レポートに表出された内容等も参考にする。			
【特記事項】							

科目名 (英)	地域・在宅看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3時限
学科・専攻	看護学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
看護師として大学病院に勤務後、看護基礎教育に従事し後半は副学校長として学校管理も担う。この職場(病院・学校)の所在地が日本の訪問看護の草分け的な地域(新宿区)という特性から、看護学基礎教育カリキュラムへの科目創設前から、施設側の協力を得て自校の教育に訪問看護実習を取り入れ、学生と共にフィールド活動を実践。平成8年に創設された「在宅看護論」の教育内容の開発時はその経験とネットワークを活かし行った。自身はこの領域での研究、書籍の執筆、複数の看護基礎教育機関や現任教育にも関わった。研究テーマは、退院支援に関することであり、それぞれの経験を本科目領域についての教授活動に活かす。 超高齢社会の到来と保健医療福祉政策の転換とともに、重要性が増している在宅ケアの中で、看護者として病気や障害で療養する人々の健康上の問題と生活への影響を理解し、療養者や家族が安心してその人らしい生活を継続していくために必要な在宅看護の基礎知識を社会の動向や保健医療福祉の動向も踏まえて学習する。今後、自分自身が年齢を重ねつつ体験する世界であり、自分の問題として考えながら主体的に学んで欲しい。							
【到達目標】							
1. 在宅における生活援助技術の考え方や工夫の方法を学ぶ。 2. それぞれの援助に関して、活用できる社会資源が考えられる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② メディカ出版 授業時別途資料の配布あり				≪予習≫講義テーマに関連するテキストの該当ページをよく読んで、不明点を書き出しておくなどして、授業中に解決できるようにする。質問も積極的に。 ≪復習≫講義で配布した資料やテキストを必ず読み返しておくこと。 課題学習を課すこともあり。			
授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【授業単元】在宅における生活支援の考え方			【授業単元】			
	【授業形態】講義			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・在宅での看護の基本(生活することを支える、活動制限の見極め)が理解できる。 ・環境整備、生活リハビリテーション、感染予防について理解できる。						
2	【授業単元】在宅における生活援助の実際			【授業単元】			
	【授業形態】講義			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・在宅における食生活の援助について理解できる。 ・在宅における排泄の援助について理解できる。						
3	【授業単元】在宅における生活援助の実際			【授業単元】			
	【授業形態】講義			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・在宅における呼吸の援助について理解できる。 ・在宅における清潔の援助について理解できる。						
4	【授業単元】社会資源の活用			【授業単元】			
	【授業形態】講義・演習			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・社会資源の概要を理解し、生活援助のために活用・調整できる資源が考えられる。 ・福祉用具について調べて学ぶ。 ※ 次回校内実習(シャワー浴・吸引)の概要と方法を理解する。						
5	【授業単元】シャワー浴・吸引 “校内実習”			【授業単元】			
	【授業形態】演習			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・自力で座位保持ができる療養者の入浴・シャワー浴介助を実践できる。 ・気管内 吸引についてシュミレーターで実践できる。						
6	【授業単元】社会資源の活用			【授業単元】			
	【授業形態】講義・演習			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・介護保険制度における居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスについて理解する。 ・社会資源の活用における看護師の役割が理解できる。						
7	【授業単元】校内実習・演習のまとめ			【授業単元】			
	【授業形態】講義・演習			【授業形態】			
	【到達目標】			【到達目標】			
	・シャワー浴介助、気管内吸引の校内実習の振り返りができる。 ・在宅における生活支援について、その工夫も含め具体的な理解ができる。						
試験	【授業単元】修了認定試験			【評価方法について】			
	【授業形態】			評価は、筆記試験60%、提出レポート40%の配点で行う。			
	【到達目標】			筆記試験では、授業内で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。 提出レポートは、事前提出分と事後提出の内容も参考に評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	地域・在宅看護学方法論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3時限
学科・専攻	看護学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 看護師として大学病院に勤務後、看護基礎教育に従事し後半は副学校長として学校管理も担う。職場(病院・学校)の所在地が日本の訪問看護の草分け的な地域(新宿区)という特性から、看護学基礎教育カリキュラムの科目創設前から、施設側の協力を得て本学教育カリキュラムに訪問看護実習を取り入れた。学生と共にフィールド活動を実践し、平成8年創設の科目「在宅看護論」の教育開発時はその経験とネットワークを活かした。さらに自身はこの領域での研・学会発表、書籍の執筆等を行い、複数の看護基礎教育機関での授業や教師の現任教育にも関わった。研究テーマは、退院支援に関することであり、それぞれの経験を本科目領域についての教授活動に活かす。 超高齢社会の到来と保健医療福祉政策の転換とともに重要性が増している地域・在宅ケアである。地域社会や人々の生活の理解を前提に看護者としてさらに病氣や障害で療養している人々の健康上の問題と生活への影響を踏まえ、療養者や家族が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくために必要な地域・在宅看護の基礎知識を社会の動向や保健医療福祉の動向も踏まえて学習する。今後、誰もが年齢を重ねつつ体験しなければならない課題であり、自身の問題として主体的に考えながら学んで欲しい。							
【到達目標】 1. 医療的援助技術を必要とする療養者の看護を理解する。 2. 医療的ケアを行いながら在宅療養生活を送っている人のケアマネジメントについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・ナースিং・グラフィカ 地域・在宅看護論② メディカ出版 ・随時関連文献紹介 ・授業時別途資料の配布				【授業外における学習】 ≪予習≫講義テーマに関連するテキストの該当ページをよく読んで、不明点を書き出しておくなどして、授業中に解決できるようにする。質問も積極的に。 ≪復習≫講義で配布した資料やテキストを必ず読み返しておくこと。 課題学習を課すこともあり。			
授 業 概 要				回 授 業 概 要			
1	【授業単元】 在宅にける医療管理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・医療的ケアの概念を理解する。 ・在宅医療の対象者を理解する。 ・在宅における医行為の特徴と診療報酬を理解する。			9	【授業単元】 ICFを活用した在宅看護の対象の事例展開 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 COPDの療養者について、ICFの枠組みの看護過程の展開用紙を用いてアセスメント～計画立案を行う。		
2	【授業単元】 在宅経管栄養法(HEN)を行っている人の看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・在宅経管栄養法の概念について理解する。 ・在宅経管栄養法の対象者と特徴を理解する。 ・在宅経管栄養法を行っている療養者・家族への支援について理解する。			10	【授業単元】 ICFを活用した在宅看護の対象の事例展開 【授業形態】 演習 【到達目標】 COPDの療養者について、ICFの枠組みの看護過程の展開用紙を用いてアセスメント～計画立案を行う。 ※ 成果物の提出		
3	【授業単元】 在宅中心栄養法(HPN)を行っている人の看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・在宅中心静脈栄養法の概念について理解する。 ・在宅中心静脈栄養法の対象者と特徴を理解する。 ・在宅中心静脈栄養法を行っている療養者・家族への支援について理解する。			11	【授業単元】 ICFを活用した在宅看護の対象の事例展開 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ALSの療養者について、ICFの枠組みの看護過程の展開用紙を用いてアセスメント～計画立案を行う。		
4	【授業単元】 慢性腎不全で透析(連続携行式腹膜透析:CAPD)を行っている人の看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・在宅CAPDの概念について理解する。 ・在宅CAPDの対象者と特徴を理解する。 ・在宅CAPDを行っている療養者・家族への支援について理解する。			12	【授業単元】 ICFを活用した在宅看護の対象の事例展開 【授業形態】 演習 【到達目標】 ALSの療養者について、ICFの枠組みの看護過程の展開用紙を用いてアセスメント～計画立案を行う。 ※ 成果物の提出		
5	【授業単元】 人工呼吸療法を行っている人の看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・在宅人工呼吸療法の概念について理解する。 ・在宅人工呼吸療法の対象者と特徴を理解する。 ・在宅人工呼吸療法を行っている療養者・家族への支援について理解する。			13	【授業単元】 事例展開についての発表 【授業形態】 演習 【到達目標】 事例展開の結果の発表を通して、学習成果を共有し、今後の課題を考えられる。		
6	【授業単元】 在宅酸素療法・COPD療養者の概要 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・在宅酸素療法について理解する。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者・家族への支援について学ぶ。 ※ 業者による特別講義(別時間を活用) ⇒「在宅酸素療法の機器管理と療養者への支援」			14	【授業単元】 医療的ケアを受けている人のケアマネジメント 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・医療的ケアを行いながら在宅療養生活を送っている人について、授業全体を振り返りケアマネジメントや看護の役割を具体的に理解する。 ・学習内容のまとめができる。		
7	【授業単元】 導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理 【授業形態】 演習 【到達目標】 シミュレーターを用いた実習を通して、導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理について学ぶ。			15	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 シミュレーターを用いた実習を通して、導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理について学ぶ。 ・実習後の振り返り・学習のまとめを行う。			【評価方法について】 評価は、筆記試験60%、提出レポート40%の配点で行う。 筆記試験では、授業内で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。 提出レポートは、事前提出分と事後提出分の両方の内容をもとに評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。クリティカルケア看護の概念を知り、生命維持に重要な呼吸・循環など救急対応が必要な状況を理解する。 また、生命の危機的状態と身体の苦痛の緩和、治療、医療機器について理解する。							
【到達目標】 急性期にある人の看護の特徴を理解する。 呼吸機能障害のある人の看護を理解する。 循環機能障害のある人の看護を理解する。 危機的状況にある患者の看護を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ健康危機状況/セルフケアの再獲得				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にしておこなう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 成人期における危機状況 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害・事故・手術などによる危機状態が理解できる。			9	【授業単元】 循環機能障害と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 虚血性心疾患患者の看護が理解できる。 ・病態、症状と苦痛の緩和、安静に応じた日常生活援助、心臓リハビリテーション、心臓カテーテル治療を受ける患者の看護 ・心不全の症状と看護		
2	【授業単元】 クリティカルケアと看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 クリティカルケアと看護の役割が理解できる。 救急医療体制 救急看護の役割と定義			10	【授業単元】 病棟の急変と対応 【授業形態】 講義 【到達目標】 異常の早期発見と連携の必要性が理解できる。 ・救急カートの活用 ・コミュニケーション(SBAR)		
3	【授業単元】 危機的状況における看護の基本 【授業形態】 講義 【到達目標】 苦痛の緩和、身体悪化の回避、生活行動制限の対応など危機的状況への対応が理解できる。			11	【授業単元】 医療機器の管理・観察 【授業形態】 講義 【到達目標】 人工呼吸器装着、胸腔ドレナージ等観察・管理が理解できる。		
4	【授業単元】 呼吸困難の臨床判断と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 危機的状況における看護が理解できる。 呼吸・循環管理の必要性と看護が理解できる。			12	【授業単元】 救命救急治療が必要な症状や病態 【授業形態】 講義 【到達目標】 手術等の侵襲的治療を受ける状況が理解できる。 救命救急治療を必要とする状況が理解できる。 ・心筋梗塞・脳梗塞 PCI r-PAなど		
5	【授業単元】 呼吸困難のある患者の看護 【授業形態】 演習 【到達目標】 呼吸管理と酸素の取り扱いができる。 ・呼吸困難の症状と観察 ・気道の浄化、肺理学療法(体位ドレナージ) ・酸素の評価、取り扱い、苦痛の緩和			13	【授業単元】 救急処置と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 主要状態における対応が理解できる。 ・急性中毒患者、溺水、窒息 ・ショック状態 ・意識障害		
6	【授業単元】 危機的状況にある患者の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 ICU・CCU・救命救急センターの役割が理解できる。 構造・機能・環境の変化と患者の心理的反応が理解できる。			14	【授業単元】 危機的状況にある患者と家族 【授業形態】 講義 【到達目標】 苦痛の緩和、身体機能悪化、生活行動への支援、心理的・精神的不安などの出現と看護の必要性が理解できる。		
7	【授業単元】 危機的状況にある患者の観察 【授業形態】 講義 【到達目標】 救急患者に必要な観察とアセスメントができる。 全身状態の観察と重症度の判断 対象の理解およびトリアージの基本 ・患者家族の特徴と対応			15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 必要なデータと判断 【授業形態】 講義 【到達目標】 意識状態・呼吸・循環、必要な検査や画像・血液・尿・12誘導心電図・内視鏡・気管支鏡などの結果と判断			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分	前期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。成人期における障害や身体の変化を受容し、セルフケアを再獲得できるように支援することが求められる。疾病や事故などにより二次的障害が残った場合、早期のリハビリテーションを行い、残存機能の活用や代償機能の獲得が望ましい。職場、家庭において身体の変化からの影響はある。生活背景を理解するとともに個別にあった対応の選択と看護が速やかに介入できるように学習していく必要がある。							
【到達目標】 回復期にある人の看護の特徴を理解する。 機能喪失した人の看護を理解する。 脳血管疾患の看護を理解する。 機能を維持するためのリハビリ看護を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ健康危機状況/セルフケアの再獲得、セルフマネジメント、リハビリテーション看護				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にしておこなう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 身体の変化とセルフケア再獲得 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害受容と二次的合併症と早期リハビリテーションの必要性が理解できる。			9	【授業単元】 回復期にある患者の事例検討① 【授業形態】 講義 【到達目標】 くも膜下出血患者事例展開 ・急性期、慢性期、回復期の病期と看護の特徴		
2	【授業単元】 回復過程とリハビリテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 回復過程とリハビリテーション期にある患者の身体的特徴が理解できる			10	【授業単元】 回復期にある患者の事例検討② 【授業形態】 講義 【到達目標】 くも膜下出血患者事例展開 ・看護介入		
3	【授業単元】 機能喪失した人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 脊髄損傷がある人の看護が理解できる。 ・精髄損傷部位、脊髄ショック、二次障害・合併症予防、残存機能の活用、精神的支援			11	【授業単元】 ストマを持つ人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 ストマ造設を必要とする病態が理解できる。 ・尿路変更と人工肛門		
4	【授業単元】 機能喪失した人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 脊髄損傷がある人の看護が理解できる。 残存機能の活用、ボディイメージの変化と適応			12	【授業単元】 ストマを持つ人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 ストマを増設する人のセルフケア再獲得の支援を理解できる。 ・ストマ管理 ・生涯コントロール ・ボディイメージの変化		
5	【授業単元】 脳血管疾患のある人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳血管疾患のある人の看護が理解できる。 ・脳血管の異常、再梗塞のアセスメントと予防 ・再出血、手術療法とドレーン管理			13	【授業単元】 ストマを持つ人の看護 【授業形態】 演習 【到達目標】 ストマの管理が理解できる。 ・心理的变化 ・日常生活とセルフケアと受容 ・装具の種類と取り扱い		
6	【授業単元】 脳血管疾患のある人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳血管疾患のある人の看護が理解できる。 高次機能障害の症状と看護			14	【授業単元】 回復期にある患者の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 そのひとらしい生き方への支援		
7	【授業単元】 脳血管疾患のある人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳血管疾患のある人の看護が理解できる。 麻痺の出現、リハビリテーションと社会生活参加への援助 言語機能障害、失行・失認など			試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 乳房切除術を受ける人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 乳房切除した人のセルフケア再獲得の支援ができる。 ・乳房切除後の看護、ボディイメージの変化と受容 ・リハビリテーション、二次的合併症			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	25時間	開講区分	前期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。疾患や障害、問題を抱えていてもコントロールしながら日々の生活が可能になるように支援していく、成人期にある患者の支援を個人の能力の把握や希望を受け止めながら介入していく。							
【到達目標】 慢性期ある人の看護を理解する。 生涯コントロールを必要とする患者の看護を理解する。 慢性期にある人の看護過程の展開方法を無理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ健康危機状況/セルフケアの再獲得、セルフマネジメント				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にしておいて参加する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
	【授業単元】 セルフマネジメントとは 【授業形態】 講義 【到達目標】 セルフマネジメントの主要概念が理解できる。				【授業単元】 糖尿病患者(慢性期)の看護過程 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ゴードンの機能的健康パターンの活用方法について理解できる。 成人期慢性期の特徴を把握した情報整理とアセスメントができる。		
	【授業単元】 セルフマネジメントのための対象理解と支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 セルフマネジメントのための対象理解ができる。 ・QOL、自己効力感、コンプライアンス、アドヒアランス、コンコダンス 支援について理解できる ・コミュニケーション、レディネス、問題の確認				【授業単元】 糖尿病患者(慢性期)の看護過程 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 根拠を持ち、看護問題が明らかにできる。		
	【授業単元】 糖尿病患者の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 糖尿病患者の病態を理解できる。 ・症状、治療、合併症、検査				【授業単元】 糖尿病患者(慢性期)の看護過程 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 適切な目標と解決に向けた看護計画が立案できる。		
	【授業単元】 糖尿病患者の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 糖尿病患者の支援を理解できる。 ・自己管理、必要な指導 ○4回5回は八千代医療センター認定看護師講義				【授業単元】 糖尿病患者(慢性期)の看護過程 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 指導計画が立案できる。		
	【授業単元】 肝硬変患者の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人期慢性期の特徴を把握した情報整理とアセスメントができる。				【授業単元】 糖尿病患者(慢性期)の看護過程 【授業形態】 演習 【到達目標】 指導計画の発表ができる。 ・食事指導、生活指導、合併症予防、血糖測定指導など		
	【授業単元】 セルフケア再獲得 【授業形態】 講義 【到達目標】 セルフケア再獲得に必要な看護が理解できる。				【授業単元】 糖尿病患者(慢性期)の看護過程 【授業形態】 演習 【到達目標】 指導計画の発表ができる。 ・食事指導、生活指導、合併症予防、血糖測定指導など		
	【授業単元】 血液・自己免疫系疾患を持つ患者の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス 症状・治療・看護			試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
	【授業単元】 乳房切除術を受ける人の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 乳房切除した人のセルフケア再獲得の支援ができる。 ・乳房切除後の看護、ボディイメージの変化と受容 ・リハビリテーション、二次的合併症			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	5時間	開講区分	前期 金曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 糖尿病看護認定看護師の資格を有し、大学病院で資格を活かしながら外来勤務をしている看護師が授業を担当します。糖尿病看護歴は28年です。 糖尿病を持ちながら生活する人々の理解を深め、看護師として支援するための方法を学びます。そのために必要な糖尿病の病態生理をはじめ、対象理解 や行動変容に生かせる理論の理解を深めます。糖尿病看護認定看護師がどのように対象と向き合っているかをお話します。 学生と一緒に対話を通して学びを深めていきたいと思います。							
【到達目標】 糖尿病の病態生理、特に血糖変動について理解する 糖尿病を持ちながら生活する人々への療養支援について述べるができる 対象理解(行動変容・行動強化など)に活用できる理論を述べるができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・ナーシングプラティカ 成人看護学 セルフマネジメント ・糖尿病治療ガイド2022-2023 ・糖尿病療養指導ガイドブック2022 ・ここが知りたい！糖尿病診療ハンドブックVer.5 など				【授業外における学習】 一年次に行った血糖自己測定の結果を参考に、健常な血糖変動について復 習しておいてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 糖尿病の病態生理と病期に合わせた看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 糖尿病の病態生理が理解できる。 糖尿病の治療内容や病期(合併症などの進展状況)に合わせた 看護を学ぶことができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 慢性疾患を持つ対象理解 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 慢性疾患を持つ対象を包括的に捉える理論について学ぶこと ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 血糖コントロールと生活調整 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 糖尿病看護特定認定看護師が、対象を全人的に捉え、療養生 活に必要な知識・技術を提供し、どのように生活調整をしてい るか、学ぶことができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】		
【特記事項】							

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅳ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。苦痛の緩和や患者が望むことを実現するための看護について考える機会とする。死をとらえ、家族関係や生と死について考える。							
【到達目標】 終末期にある人の看護の特徴を理解する。 緩和ケアについて理解する。 がんで治療・療養する人の看護を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ緩和ケア				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にしておいて参加する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 緩和ケアとは 【授業形態】 講義 【到達目標】 緩和ケアの概念について理解できる。 ・全人的苦痛とQOL、緩和ケアと生命倫理、家族ケア			9	【授業単元】 がん治療に伴う苦痛の緩和 【授業形態】 講義 【到達目標】 化学療法、放射線療法を受ける人の看護について理解できる。		
2	【授業単元】 緩和ケアの現状と課題 【授業形態】 講義 【到達目標】 終末期の現状と望ましい緩和ケアが考えられる。 ・日本、諸外国の歴史と現状 ・疾患別死亡順位 ・緩和ケアの課題			10	【授業単元】 がん治療に伴う苦痛の緩和 【授業形態】 講義 【到達目標】 化学療法、放射線療法を受ける人の看護について理解できる。		
3	【授業単元】 緩和ケアを必要とする人の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 全人的苦痛を持つ緩和ケアを必要とする人の理解ができる。 ・身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛など ・意思決定の支援 ・コミュニケーション			11	【授業単元】 がん治療・疼痛コントロールに使用する薬剤の管理 【授業形態】 演習 【到達目標】 麻薬や悪性腫瘍剤などの取り扱いができる。		
4	【授業単元】 身体症状と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体症状のアセスメントと必要な看護が理解できる。 ・疼痛の機序と分類、鎮痛薬の種類と使用方法 ・副反応とケア			12	【授業単元】 ターミナルケアと緩和ケア 【授業形態】 講義 【到達目標】 終末期にある患者の特徴が理解できる。 ・生と死、死生観 ・家族の思い、グリーフケア ・急変時の対応		
5	【授業単元】 身体症状と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体症状のアセスメントと必要な看護が理解できる。 ・倦怠感、リンパ浮腫、呼吸器症状、消化器症状			13	【授業単元】 臨死期、臨終後の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨死期の状況と看護が理解できる。 ・身体、心身の変化、看取りと家族の対応、消極的安楽死、倫理的問題、死の判定、死後の処置(エンゼルケア)グリーフケア		
6	【授業単元】 身体症状と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体症状のアセスメントと必要な看護が理解できる。 ・倦怠感、リンパ浮腫、呼吸器症状、消化器症状			14	【授業単元】 終末期における倫理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 その人らしい死と看護について自分の考えを伝えることができる。 ・DNAR、臓器提供、さまざまな視点で意見交換を行う。 ・死後の処置、臨終時の看護 ・死を考え、どう生きるか 安楽死・尊厳死		
7	【授業単元】 精神症状と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 対象の精神症状に伴う苦痛が理解できる。 ・不眠、抑うつ、せん妄、不安、怒り、恐怖、社会的苦痛			15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 緩和ケアを必要とする人との関わり方 【授業形態】 演習 【到達目標】 コミュニケーション技法やケアを用いて、対象の思いや苦痛について知ることができる。			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅴ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。苦痛の緩和や患者が望むことを実現するための看護について考える機会とする。死をとらえ、家族関係や生と死について考える。							
【到達目標】 周手術期にある看護の特徴を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ周術期看護				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にしておこなう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 周術期看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 手術の決断と手術前後の経過の概要が理解できる。 ・外科的侵襲から回復の生体反応が理解できる。 ・手術の種類と分類 ・日帰り手術 ・クリニカルパス			9	【授業単元】 周術期の看護過程 【授業形態】 講義 【到達目標】 事例を読み込み必要な情報収集をすることができる。		
2	【授業単元】 手術過程に応じた看護（術前） 【授業形態】 講義 【到達目標】 術前の看護が理解できる。 ・術前準備・訓練 ・手術前の検査 ・麻酔における術前検査			10	【授業単元】 周術期の看護過程 【授業形態】 講義 【到達目標】 アウトカム・バリエーションを意識し問題点の抽出と根拠が明確にできる。		
3	【授業単元】 手術室における看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 術中の体位の保持、介助、麻酔導入・覚醒時の看護が理解できる。 病棟引き継ぎ ・手術の種類(内視鏡、開腹、開胸)			11	【授業単元】 周術期の看護過程 【授業形態】 講義 【到達目標】 適切な看護援助の計画立案ができる。		
4	【授業単元】 術後の経過と回復過程 【授業形態】 講義 【到達目標】 全身状態のアセスメントができる。 創傷、挿入物からの腐敗、合併症を含む。 術後合併症予防と発症時期が理解できる。			12	【授業単元】 術後観察および管理 【授業形態】 演習 【到達目標】 術後観察及び創処置ができる。 術後侵襲をふまえて配慮しながらケアができる。 ドレーン管理、点滴管理、更衣など		
5	【授業単元】 術後の経過と回復過程の促進と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 苦痛の緩和とともに早期離床と異常出現が理解できる。 ・ムーアと回復過程			13	【授業単元】 術後観察および管理 【授業形態】 演習 【到達目標】 術後観察及び創処置ができる。 術後侵襲をふまえて配慮しながらケアができる。 ドレーン管理、点滴管理、更衣など		
6	【授業単元】 呼吸器の手術過程と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸器疾患の手術過程と看護が理解できる。			14	【授業単元】 看護過程展開の発表 【授業形態】 講義 【到達目標】 周術期にある人の看護過程が理解できる。 ・アウトカム、介入計画、バリエーション、合併症予防と早期離床等 ・手術を受ける患者、家族の思い		
7	【授業単元】 循環器の手術過程と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 循環器疾患の手術過程と看護が理解できる。			15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 消化器の手術過程と看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 胃がん・大腸がん・肝臓がんの病態と手術過程・看護が理解できる。			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	老年看護学概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。超高齢社会、多死社会など高齢者をとりまく社会的課題は多い。社会的動向を理解しつつ課題を明らかにし高齢者看護を深めていく。							
【到達目標】 超高齢社会の統計的輪郭を理解する。 超高齢社会における保健医療福祉の動向を理解する。 高齢者の権利擁護について理解する。 高齢者の災害看護について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 事前にテキストや課題を行ってから講義に参加してほしい。医療情報について、社会の動向を常にキャッチする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 超高齢社会の統計的変遷 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者を取り巻く社会的状況が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 高齢者の暮らしと生活 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者の暮らしと生活が理解できる。 アイデンティティ、経済、家族、介護と見取り、多死社会				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 保健福祉社会制度の変遷 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 日本における保健医療福祉制度の変遷が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 介護保険法制定 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 介護保険制度が理解できる。 保健医療のしくみ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 地域包括ケア 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 地域包括ケアの現状が理解できる。 日本の高齢者対策、居宅サービス				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 高齢者の権利擁護 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者の権利擁護と権利擁護のための制度が理解できる。 スティグマ、アドボカシー、虐待、後継人制度				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 高齢者における災害看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害に際して高齢者が置かれる状況と必要な支援が理解できる。 多職種連携、看護活動				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。			【評価について】 学則の評価基準に基づき修了認定試験を行う			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	老年看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	7時間	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 皮膚排泄ケア認定看護師として病院で専従看護師として勤務し、病院内の褥瘡計画や回診、予防具の管理、実態調査、勉強会をしている講師が授業を担当する。 加齢に伴って生じる皮膚の障害(褥瘡)について、基本的知識を理解し、リスクアセスメントから必要な予防ケアへつながるように講義・演習する。							
【到達目標】 1. 褥瘡の特徴とケア方法を理解する。 2. 褥瘡になりやすいリスクを理解する。 3. 褥瘡の予防看護を理解する。 4. 褥瘡の治療方法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 老年看護学				【授業外における学習】 テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。関連動画がある場合は視聴する。学習した内容を整理し理解を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 褥瘡の基礎知識、褥瘡の予測評価、褥瘡状態評価と治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・褥瘡の発生要因と発生予防について説明できる ・褥瘡の発生予測のアセスメントについて説明できる ・褥瘡好発部位が説明できる ・褥瘡の分類と治療とケアについて説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 褥瘡の予防ケア① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・体圧分散ケア方法が説明できる ・ズレ・摩擦の原因とケア方法が説明できる ・安全・安楽な体位変換の援助方法を理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 褥瘡の予防ケア② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・スキンケア方法について説明できる ・スキンケアについて原因とケア方法が説明できる ・MDRPUの原因とケア方法が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 筆記試験でおこなう。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	老年看護学方法論Ⅰ (Gerontological Nursing)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 講師は総合診療科、リハビリテーション科の診療に携わる臨床医で、看護学科、作業療法学科、社会福祉学科および大学院で、医学概論、リハビリテーション医学、多職種連携論の教育経験をもつ。この科目では、高齢者の心身の構造・機能と疾患、支援の特徴について、教科書的な知識だけでなく臨床例を紹介しながら学ぶ。受講にあたって、老年症候群やリハビリテーション看護学の分野も各自が参照して理解を深めるよう期待する。							
【到達目標】 加齢や疾病による高齢者の生活機能の障害のうち、よく遭遇するものについて説明することができる。 高齢者が自分らしく、尊厳をもって、生活の質を保ちながら、苦痛なく生きぬくことを支えるための看護の進め方を考えることができる。 高齢者の生活機能についてICFの概念を用いて、患者・家族、他職種と認識を共有し意思疎通することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 適宜出題する予習問題に自分の力で取り組み、講義後の提出課題について講義内容、資料、教科書、図書館等をもとに取り組み、提出する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 老化・老年症候群と高齢者のケア 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 老化のメカニズムを理解し、ケアの場面で説明できる。 高齢者を看護する際に、老化に配慮して考えることができる。 老化による生活機能の障害をICFの概念・用語で説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 水分の管理と栄養 【授業形態】 講義 【到達目標】 脱水、熱中症、浮腫、栄養、排泄について、ケアの場面で説明できる。 高齢者の水分と栄養、排泄の障害に配慮して考えることができる。 高齢者の脱水・溢水・栄養・排泄の障害をICFの概念・用語で説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 感覚器の加齢による変化と機能・構造障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚などの障害を説明できる。 高齢者ケアの場面で、感覚障害に配慮して考えられる。 高齢者の感覚障害をICF概念・用語で捉え、説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 呼吸器と循環器の加齢による変化と機能・構造障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 肺炎、慢性閉塞性肺疾患、動脈硬化性疾患、心不全等の障害を説明できる。 高齢者ケアの場面で、呼吸器・循環器機能障害に配慮して考えられる。 高齢者の呼吸・循環機能障害をICFの概念と用語で捉え、説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 運動器の加齢による変化と機能・構造障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 骨粗鬆症、骨折、変形性疾患、運動機能障害を説明できる。 高齢者ケアの場面で、運動の構造・機能障害に配慮して考えられる。 高齢者の運動器・運動機能障害をICFの概念と用語で捉え、説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 腎・泌尿器の加齢による変化と機能・構造障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎不全、前立腺肥大症、排尿障害、尿路感染について説明できる。 高齢者ケアの場面で、腎・泌尿器の障害に配慮して考えられる。 高齢者の排尿機能障害をICFの概念と用語で捉え、説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 高齢者の認知症と神経・精神系の機能・構造障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知症、精神・神経系の機能構造障害について説明できる。 高齢者ケアの場面で認知・精神・神経機能障害に配慮して考えられる。 高齢者の認知・精神・神経機能障害をICFの概念と用語で捉え、説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 試験 【授業形態】 【到達目標】 本科目の範囲の看護師国家試験問題の出題意図を理解できる。				【評価について】 中間試験、修了認定試験、授業へのリアクションの内容で成績を評価する。配分は、修了認定試験60%、中間試験30%、リアクション10%とする。 従って、測定は授業および中間試験時、修了認定試験時に行う。 合計100点のうち60点以上を合格とする。ただし、リアクションの内容が特に授業の改善に貢献する場合は特別に加点することがある。		
【特記事項】							

科目名 (英)	老年看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	8時間	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 「加齢変化と疾患の特徴」について理解し、看護について学びを深めていく。							
【到達目標】 1 高齢者が安全に治療を受けるための看護について理解する。 2 高齢者に特徴的な疾患の看護について理解する。 3 エンドオブライフケアについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 事前にテキストや課題を行ってから講義に参加してほしい。医療情報について、社会の動向を常にキャッチする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 安全に治療を受けるための看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者の看護の特徴について理解できる。 治療時の看護について理解できる 薬物療法と看護、手術療法と看護、リハビリテーションと看護				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
2	【授業単元】 高齢者に特徴的な疾患と看護① 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者に起こりやすい症状と看護が理解できる。 老年期うつ、パーキンソン症候群、認知症				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
3	【授業単元】 高齢者に特徴的な疾患と看護②(手術を受ける患者の看護) 【授業形態】 講義 【到達目標】 生理的機能の変化と手術のリスクが理解できる。 大腿骨頸部骨折・術後せん妄				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
4	【授業単元】 高齢者に特徴的な疾患と看護③(リハビリテーション時の看護) 人生の終末期にある高齢者の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者の言語療法、嚥下訓練の指導ができる。 脳梗塞患者の言語療法・嚥下訓練 人生の終末期にある高齢者の看護が理解できる。 老いと死、死のとらえ方、死を迎える場所、尊厳死、安楽死、苦痛の緩和、グリーフケア				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 試験				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 講義 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 科目終了後、筆記試験を実施する。修了認定評価基準に沿って評価する。		
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	老年看護学方法論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分	後期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し、臨床経験のある教員が授業を担当する。高齢者の加齢変化によって起こりうる症状の治療・処置への看護援助を理解することができる。老年期(高齢者)にある対象の事例から、高齢者の特徴(加齢変化)、及び疾患を捉え、看護過程を展開し、老年看護を深めていく。							
【到達目標】 高齢者の特徴的な治療・処置の看護技術を理解する。 老年期にある対象の特徴(加齢変化)、疾患を捉えた看護過程を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				事前にテキストや課題を行ってから講義に参加してほしい。医療情報について、社会の動向を常にキャッチする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 高齢者の治療・処置の看護技術 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者の対象に合わせた必要な治療・処置が理解できる。 高齢者の特徴を踏まえた経皮外用薬・直腸内与薬の援助方法が理解できる。			9	【授業単元】 高齢者の看護過程の展開② 【授業形態】 講義 【到達目標】 アセスメントと問題の明確化ができる。		
2	【授業単元】 経皮外用薬・直腸内与薬・浣腸の援助の実際 【授業形態】 演習 【到達目標】 経皮外用薬・直腸内与薬の援助ができる。(浣腸・座薬挿入)			10	【授業単元】 高齢者の看護過程の展開③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 病態関連図の作成と全体像の理解ができる。		
3	【授業単元】 経皮外用薬・直腸内与薬・浣腸の援助の実際 【授業形態】 演習 【到達目標】 経皮外用薬・直腸内与薬の援助ができる。(浣腸・座薬挿入)			11	【授業単元】 高齢者の看護過程の展開④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 目標の設定と介入計画立案ができる。		
4	【授業単元】 排尿困難時の援助方法 【授業形態】 講義 【到達目標】 排尿困難(既習)による援助方法がわかる。導尿・留置カテーテルの挿入・膀胱留置カテーテルの援助技術・管理方法が理解できる。			12	【授業単元】 高齢者の看護過程の展開⑤ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 個別に配慮した援助計画が立案できる。		
5	【授業単元】 導尿・膀胱留置カテーテルの援助の実際 【授業形態】 演習 【到達目標】 導尿・留置カテーテルの挿入の援助技術、管理方法が理解できる。			13	【授業単元】 高齢者の看護過程の展開⑥ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 よりよい援助への計画に修正ができる。 発表によるリフレクション		
6	【授業単元】 導尿・膀胱留置カテーテルの援助の実際 【授業形態】 演習 【到達目標】 導尿・留置カテーテルの挿入の援助技術、管理方法が理解できる。			14	【授業単元】 高齢者の看護過程の展開⑦ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 患者の問題解決のための実践ができる。		
7	【授業単元】 高齢者 心不全患者の看護(看護過程) 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者の加齢変化・心不全の病態が理解できる。			15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 高齢者の看護過程① 【授業形態】 講義 【到達目標】 高齢者(患者の病態・加齢変化)特徴を踏まえた看護過程が展開できる。			【評価について】 修了認定試験にて評価基準			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	小児看護学概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間	開講区分 曜日・時間	前期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 【教員紹介】看護学科で担当2年目になります。臨床で小児病棟に勤務し、看護教育に従事後は一貫して小児看護学を専門とし、講義・演習を担当しております。【学習内容】小児を心身ともに健やかに育てていくための環境(保健対策、法律)、状況を把握するための保健統計などについて学習します。【心構え】日常生活で小児に関するニュースに関心を寄せてほしい。							
【到達目標】 Ⅰ. 小児の健康指標と保健対策を理解できる。Ⅱ. 疾病や障害をもった小児の環境を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】Ⅰ.小児の健康指標と保健統計 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 保健統計から、現在の小児の健康問題・課題を把握できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】Ⅰ.小児の健康指標と保健統計 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児の健康を守るための日宇率について理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】Ⅰ.小児の健康指標と保健統計 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児の健康を守るための法律・施策について理解できる。(学校保健法、予防接種)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】Ⅱ. 疾病や障害のある小児を取り巻く環境 【授業形態】講義 【到達目標】 外来における小児と家族の看護を理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】Ⅱ. 疾病や障害のある小児を取り巻く環境 【授業形態】講義 【到達目標】 隔離が必要な小児と家族の看護を理解できる。活動制限のある小児と家族の看護を理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】Ⅱ. 疾病や障害のある小児を取り巻く環境 【授業形態】講義 【到達目標】 災害を受けた小児と家族の看護を理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】Ⅱ. 疾病や障害のある小児を取り巻く環境 【授業形態】講義 【到達目標】 在宅療養をうける小児と家族の看護を理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】			【評価方法について】 毎時間ごとの復習小テスト(7回)及び修了テストの総合評価。			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児看護学方法論Ⅰ (Pediatric Nursing)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。小児の基本的な看護技術とともに健康状態に応じた看護について理解する。主な疾患の病態と治療とつなげて看護へと発展させていくため、同時進行になる疾患では病態・治療をしっかりと理解してもらいたい。							
【到達目標】 成長発達に応じた健康支援を理解する。 健康状態に応じた看護を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児各期の成長発達と健康支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 乳児・幼児・学童・思春期の日常生活支援が理解できる。 保清、皮膚の観察、事故防止について理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 急性期にある小児の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 急性期症状のある小児の看護が理解できる。 発熱、脱水、呼吸困難、痙攣、浮腫、嘔吐・下痢 周手術期にある小児の看護 外来手術等				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 慢性期にある小児の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児慢性疾患特定疾患治療研究事業と慢性疾患を持つ小児の看護が理解できる。長期療養を要する小児の看護が理解できる。 在宅療養をしている小児の看護が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 先天的な問題のある小児と家族 【授業形態】 講義 【到達目標】 先天異常の種類と特徴が理解できる。 先天異常、家族の理解と支援、心身障害等				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 幼児期の成長発達と健康支援 【授業形態】 演習 【到達目標】 オムツ交換、更衣、環境整備、ベッド柵の取り扱いの実施を行い、感染予防や事故防止を踏まえた技術の習得ができる。						
6	【授業単元】 低出生体重児の看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 低出生体重児の特徴と看護が理解できる。 感染予防、保育器の取り扱い、ディベロップメンタルケア、家族形成				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 終末期にある小児 【授業形態】 講義 【到達目標】 終末期にある小児の看護が理解できる。 死の概念、苦痛と緩和ケア、死を看取る家族の支援				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。 修了認定試験			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 講義前に教科書の該当箇所を必ず熟読してくること。							

科目名 (英)	小児看護学方法論Ⅰ (Pediatric Nursing)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 救急医・小児科医・麻酔科医として長きに渡り臨床に携わってきた救急科専門医・小児科専門医・小児科指導医として認定されている教員が、社会に貢献できる看護師を養成するため、小児の専門的な知識を習得するための講義を行う。看護師として小児疾患の病態生理を理解し、対応できるようになるため小児解剖生理学の復習から小児の専門的内容まで履修していく。必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には事前に教科書の該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】 小児に特徴的な疾患について、疾患の病態生理、原因、症状、検査、手術を含む治療方法、回復過程をなどについて学び理解することで、小児看護の実践に役立てるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護				【授業外における学習】 事前に教科書を熟読してから講義に臨むこと。その他の予習は不要である。講義後は小テストを行い到達度により個別にレポート課題・補講等を課す。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 先天性横隔膜ヘルニア、先天性食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症について疾患の病態生理、原因、症状、検査、手術を含む治療方法、回復過程をなどについて学び理解することで、小児看護の実践に役立てるようにする。講義後に小テストを行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 腸閉鎖症、鎖肛、臍帯ヘルニア、腹壁破裂について疾患の病態生理、原因、症状、検査、手術を含む治療方法、回復過程をなどについて学び理解することで、小児看護の実践に役立てるようにする。講義後に小テストを行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ヒルシュスプルング病、鼠経ヘルニア、二分脊椎、髄膜瘤について疾患の病態生理、原因、症状、検査、手術を含む治療方法、回復過程をなどについて学び理解することで、小児看護の実践に役立てるようにする。講義後に小テストを行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 水頭症、上腕骨顆上骨折、口唇口蓋裂について疾患の病態生理、原因、症状、検査、手術を含む治療方法、回復過程をなどについて学び理解することで、小児看護の実践に役立てるようにする。講義後に小テストを行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 単純性股関節炎、ベルテス病、先天性股関節脱臼、先天性内反足について疾患の病態生理、原因、症状、検査、手術を含む治療方法、回復過程をなどについて学び理解することで、小児看護の実践に役立てるようにする。講義後に小テストを行う。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 呼吸器疾患:気管支喘息、肺炎 腎疾患:ネフローゼ、急性糸球体腎炎、尿路感染			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 小児の特徴と主な疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 心疾患:ファロー四徴症、心室中隔欠損 血液:白血病 脳疾患:てんかん、脳性麻痺、その他:川崎病			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。 修了認定試験・講義			【評価について】 出席率、授業態度、各講義毎の小テストと個別に課したレポート課題や小テストにより成績の40%を評価する。修了認定試験により成績の60%を評価する。			
【特記事項】 講義前に教科書の該当箇所を必ず熟読してくること。							

科目名 (英)	小児看護学方法論Ⅱ (Pediatric Nursing)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有する教員が授業を担当する。小児は、自身の変化を意識して伝える力は乏しい。小児の健康を支援するためには成長発達に伴う表現を理解するとともに専門職としての確かな観察や、家族への指導ができるよう習得していく必要がある。また、問題解決のための思考過程を確実に習得できるように取り組んでほしい。							
【到達目標】 1.小児の健康を支える看護を理解する。 2.検査・治療・処置を受ける小児の看護を理解する。 3.救急処置が必要な小児の看護を理解する。 4.小児の看護過程展開を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 フィジカルアセスメント 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 対象の理解に合わせたコミュニケーションができる。 フィジカルアセスメント			9	【授業単元】 看護過程の展開① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 看護過程の思考と記録方法が理解できる。		
2	【授業単元】 発達段階に応じた説明と同意 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 インフォームドアセント、プレパレーション ディストラクションが理解できる。 痛みの評価が理解できる。			10	【授業単元】 看護過程の展開② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 事例から必要な情報の整理ができる。 ①成長発達 ②疾患や障害、検査・治療 ③家族		
3	【授業単元】 手術を受ける子どもと家族への看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 計画手術と緊急手術の必要性が理解できる。 ICUシンドローム 長期臥床、隔離が必要な小児			11	【授業単元】 看護過程の展開③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 問題の抽出と計画立案ができる。 ①情報の整理と関連		
4	【授業単元】 検査・治療・処置 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達に合わせた説明や固定方法が理解できる。 吸引、腰椎穿刺、骨髄穿刺、採血・点滴刺入時、尿測定、体位の固定			12	【授業単元】 看護過程の展開④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 必要な計画立案ができる。 ①SWIHL ②目標と実践の整合性		
5	【授業単元】 バイタルサイン測定・身体計測・経口与薬・体位の固定 【授業形態】 演習 【到達目標】 バイタルサイン、計測、経口与薬、体位の固定が実施できる。			13	【授業単元】 看護過程の展開⑤ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 計画立案から援助計画をふまえて実践ができる。 プリパレーション・介入の工夫、発達に合わせた説明 発表		
6	【授業単元】 バイタルサイン測定・身体計測・経口与薬・体位の固定 【授業形態】 演習 【到達目標】 バイタルサイン、計測、経口与薬、体位の固定が実施できる。			14	【授業単元】 看護過程の展開⑥ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 評価・修正を行い、適切な看護を考えることができる。		
7	【授業単元】 救急処置が必要な小児の看護① 【授業形態】 講義 【到達目標】 救急時の観察・判定ができる。 ①小児の意識障害 ②バイタルサイン			15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 救急処置が必要な小児の看護② 【授業形態】 講義 【到達目標】 救急時の看護ができる。 ①熱傷と重症度の判定 ②窒息と解除方法 ③心肺蘇生法			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。90点筆記試験、同日・10点アセスメントシートの提出			
【特記事項】 講義前に教科書の該当箇所を必ず熟読してくること。							

科目名 (英)	母性看護学概論Ⅱ (Motherly nursing science outline)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】							
医師および助産師の資格を有する教員が授業を担当する。妊娠期の対象の身体・心理社会的特性を理解し、妊婦とその家族に必要な看護を実施するために必要な基本的知識・技術・態度を学ぶ。また、妊産褥婦、新生児における災害時の支援をするために必要な知識・技術態度を学ぶ							
【到達目標】							
・妊娠期の経過と特徴を理解し、対象に応じた看護を提供するために必要な知識を習得する。 ・災害時の母子の支援が実施できるように、災害の備えや災害医療体制、災害時の備品の実際を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシンググラフィカ母性看護の実践 看護:メデिका出版、病気がみえる産科:メディックメディア、参考図書 母性看護学各論 医学書院							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 妊娠の成立と妊娠経過 【授業形態】 講義 【到達目標】 妊娠期の定義、妊娠の成立、受精・着床、妊娠週数、妊娠の経過と胎児の発育、母体の生理的変化、出生前診断、妊婦と家族の心理・社会的変化について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 【授業形態】 講義 【到達目標】 妊婦のアセスメントで正常な経過の理解、胎児と胎児付属物の発育、生理について知ることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 妊婦の日常生活援助 【授業形態】 講義 【到達目標】 妊娠期に正常な経過をたどるために必要な、日常生活の過ごし方について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 妊娠期のマイナートラブルの保健指導 【授業形態】 講義 【到達目標】 妊娠期に起こりやすいマイナートラブルとその対処法について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 母親役割、父親役割の習得の援助、妊婦健診 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・分娩期の心身社会的な準備、物品環境の準備について知る ・妊婦健診の項目、健診間隔、正常異常の判断ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 妊産婦の異常(小泉先生) 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な異常の診断および管理(治療)を説明できる・切迫流産・異所性妊娠・妊娠悪阻・切迫早産・妊娠高血圧症候群(HELLP症候群を含む)・妊娠糖尿病・多胎妊娠・母子感染				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 妊産褥婦の異常(小泉先生) 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な異常の診断および管理(治療)を説明できる 産道の異常:児頭骨盤不均衡 ・娩出力の異常:微弱陣痛、過強陣痛 胎児の異常:胎位異常、回旋異常、肩甲難産 ・胎児付属物の異常:常位胎盤早期剥離、前置胎盤				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】 各単元の試験を筆記試験で行い評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	母性看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Motherly nursing science outline)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分	前期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】							
助産師の資格を有し現場経験のある教員が授業を行う。妊娠期に引き続き、分娩期・産褥期の正常な経過を理解する。各時期の対象に起こる変化や適応状態をアセスメントし、母性看護の対象に関わる基本的態度と基本的技術を学ぶ。対象とその家族の持つ課題や健康問題について理解し、周産期を正常に経過し、異常に逸脱しないように対象自身のセルフケア能力を活かした援助の基本的知識・技術・態度を習得する。							
【到達目標】							
分娩期・産褥期にある対象と家族に必要な看護を実施するために必要な基本的知識・技術・態度を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシンググラフィカ母性看護の実践、母性看護技術 看護メディカ出版、病気がみえる産科メディックメディア、参考図書 母性看護学2母性看護学各論医学書院				周産期の経過を里香記するために、妊娠期の経過と看護について復習をする			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】分娩期の経過と看護分娩の経過と看護 【授業形態】講義 【到達目標】 分娩の進行と産婦の身体的変化について理解し、産婦の基本的ニーズへの支援、産痛の緩和について考えることができる。臨床現場をイメージでき、実習での実践について考えることができる。			9	【授業単元】褥婦と家族への看護 【授業形態】講義 【到達目標】 産褥復古に関する支援、母乳育児への支援、褥婦の日常生活とセルフケア、育児技術獲得への支援、親子の愛着形成の支援、家族関係構築の支援、退院後の生活調整・産後サポートについて理解する		
2	【授業単元】分娩期の看護の実際 【授業形態】講義 【到達目標】 分娩各期における産婦の特徴と看護、分娩の主な以上と看護を理解する。臨床現場をイメージでき、実習での実践について考えることができる。			10	【授業単元】産褥期の健康問題に対する看護 【授業形態】講義 【到達目標】 子宮復古不全・産褥熱・乳房トラブル・帝王切開術後・産後うつについて理解し、アセスメントできる		
3	【授業単元】在宅(自宅)分娩とはなにか(板橋) 【授業形態】講義 【到達目標】 ・在宅(自宅)分娩とはなにか ・在宅(自宅)分娩を選択することについて、その理由を知る。 ・在宅(自宅)分娩に至るまでの準備について具体的に述べる ことができる。(安全対策、連携、危機管理)			11	【授業単元】産褥体操の実際 【授業形態】演習 【到達目標】 産後の心身の回復への援助を理解し実施できる		
4	【授業単元】在宅(自宅)分娩の実際 (板橋) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・在宅分娩の実際を見てどう感じるかを述べる ・課題として、分娩方法・安全性・対象者の満足度・自分はどう思うのかをレポートにまとめることができる。			12	【授業単元】母乳育児の支援 【授業形態】演習 【到達目標】 乳房タイプに応じた授乳時のポジショニング、ラッチオンについて実施できる のソフトマッサージについて実施できる		
5	【授業単元】分娩の経過とアセスメント(山本) 【授業形態】講義 【到達目標】 分娩各期における産婦の特徴と看護を理解する。臨床現場をイメージでき、実習での実践について考えることができる。			13	【授業単元】妊婦健康診断技術演習 【授業形態】演習 【到達目標】 妊婦の健康診断で実施されている知識技術が習得できるレオブル度触診、子宮底長、腹囲、児心音聴取、浮腫の有無		
6	【授業単元】分娩期の看護と看護にかかわる技術(山本) 【授業形態】講義 【到達目標】 分娩各期における産婦の特徴と看護、分娩の主な以上と看護を理解する。臨床現場をイメージでき、実習での実践について考えることができる。			14	【授業単元】災害時の母子の対策、支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 災害における準備、訓練や病院施設での医療体制について理解する。災害時での母子の避難方法や備品の工夫について学ぶ。		
7	【授業単元】産婦と家族への看護とまとめ(山本) 【授業形態】講義 【到達目標】 母性意識の発達、出産体験の想起、新しい家族関係の構築について知る。国家試験母性看護(分娩期)の出題される内容について理解できる。			15	【授業単元】修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】産褥期の経過のアセスメント 【授業形態】講義 【到達目標】 産褥期の定義、産褥期の身体的特徴、全身の変化、生殖器の変化、乳房の変化について理解し、アセスメントできる			【評価について】 各単元の試験を筆記試験で行い評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	母性看護学方法論Ⅱ (Motherly nursing science outline)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
【授業の学習内容と心構え】							
助産師、看護師の資格を有する教員が授業を担当する。新生児期の経過と看護を理解し、各時期の対象に起こる変化や適応状態をアセスメントし、母性看護の対象に関わる基本的姿勢と基本的技術を学ぶ。 母性看護を系統的に実践するために、産褥期における母性及び新生児の経過を家族の役割なども含めてアセスメントし、看護計画の立案および評価という一連のプロセスの基本的な展開方法を学習する。							
【到達目標】							
・新生児期にある対象の特徴と看護を理解するために必要な技術・態度を習得する。 ・母性看護実践をするために、産褥期・新生児期の看護過程の方法を理解し展開できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナースングラフィカ母性看護の実践、母性看護技術 看護・メディカ出版、病気がみえる産科・メディックメディア、参考図書 母性看護学各論 医学書院							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 新生児の特徴と形態機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 新生児期の定義、特徴と形態機能について理解する			9	【授業単元】 褥婦の事例を用いた看護過程の展開① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ウェルネス思考で看護過程の展開ができる		
2	【授業単元】 新生児の生理的变化 【授業形態】 講義 【到達目標】 新生児の生理的变化について理解する。循環器系、呼吸器系、消化器系、代謝系、泌尿器系、神経系、運動器系、感覚器系、体温調節、生体の防御機能			10	【授業単元】 褥婦の事例を用いた看護過程の展開② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ウェルネス思考で看護過程の展開ができる		
3	【授業単元】 出生直後の新生児の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 アプガースコア、気道の開通、保温、全身計測、全身の観察、清潔、成熟度の評価、外観、バイタルサイン、皮膚・皮膚色、頭部・顔面、体幹・四肢、外性器、神経学的状態、識別、点眼、母子の早期接触			11	【授業単元】 褥婦の事例を用いた看護過程の展開③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ウェルネス思考で看護過程の展開ができる		
4	【授業単元】 早期新生児とその家族への看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 生理的体重減少、生理的黄疸、哺乳状態、排尿・排便、新生児マスキューニング、哺乳、感染予防、事故防止、保育環境、			12	【授業単元】 褥婦の事例を用いた看護過程の展開④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ウェルネス思考で看護過程の展開ができる		
5	【授業単元】 新生児に必要な看護技術 【授業形態】 演習 【到達目標】 沐浴、更衣、おむつ交換ができる新生児の皮膚の清潔法 ・ドライテクニック法 ・清拭法、ドライのにつく			13	【授業単元】 褥婦の事例を用いた看護過程の展開⑤ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ウェルネス思考で看護過程の展開ができる		
6	【授業単元】 児に必要な看護技術 【授業形態】 演習 【到達目標】 児のバイタルサイン測定、児計測、全身観察が実施できる 新生児の皮膚の清潔法 ・ドライテクニック法 ・清拭法			14	【授業単元】 褥婦の事例を用いた看護過程の展開⑥ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ウェルネス思考で看護過程の展開ができる		
7	【授業単元】 妊婦・褥婦に必要な看護技術 【授業形態】 演習 【到達目標】 ③子宮復古、子宮底の輪状マッサージ、悪露のアセスメントとケア 会陰部・肛門部の創傷のアセスメントとケア 産褥体操 ④乳房マッサージ・授乳姿勢			15	【授業単元】 定期試験と解説 【授業形態】 【到達目標】 知識の確認と		
8	【授業単元】 新生児の異常と、健康問題への看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 新生児の異常と看護について理解する 新生児仮死、新生児一過性多呼吸(TTN)、呼吸窮迫症候群(RDS)、胎便吸引症候群(MAS)、高ビリルビン血症、新生児ビタミンK欠乏症、低血糖症、早産児・低出生体重児、新生児蘇生			【評価について】 各単元の試験、演習と看護過程展開はレポートにて評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	精神看護学概論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 看護師の資格を有し、本校の副校長と精神看護学担当専任教員とで授業を担当する。							
【到達目標】 精神保健看護の歴史と理念を学び、患者および看護師－患者関係について理解する。 精神の構造、発達、および精神的健康に及ぼす影響要因について理解する。 生活の場とこころの健康について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ情緒発達と精神看護の基本、 精神障害と看護の実践 レビューノート				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 社会の動向と精神保健看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会の動向が理解できる。			9	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における現代の精神医療の歴史が理解できる		
2	【授業単元】 パーソナリティの理解 【授業形態】 講義 【到達目標】 1) パーソナリティ 2) フロイトの発達論 3) エリクソンの成長発達論 4) マーラーの分離・固体化			10	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における現代の精神医療の歴史が理解できる		
3	【授業単元】 心の発達と健康 【授業形態】 講義 【到達目標】 1) 精神の健康な状態、 2) イド・自我・超自我 3) 意識・前意識・無意識			11	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における現代の精神医療の歴史が理解できる		
4	【授業単元】 危機状況と心の働き 【授業形態】 講義 【到達目標】 1) 危機の概念 2) 危機の段階(カプランの4段階) 3) 防衛機制			12	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における現代の精神医療の歴史が理解できる		
5	【授業単元】 生活の場とこころの健康 【授業形態】 講義 【到達目標】 家庭における心の健康が理解できる			13	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における現代の精神医療の歴史が理解できる		
6	【授業単元】 生活の場とこころの健康 【授業形態】 講義 【到達目標】 学校における心の健康			14	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における現代の精神医療の歴史が理解できる		
7	【授業単元】 生活の場とこころの健康 【授業形態】 講義 【到達目標】 職場における心の健康			試験	【授業単元】 修了認定試験・講義 【授業形態】 【到達目標】 評価を含めた振り返りと確認		
8	【授業単元】 欧米における精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 欧米における古代・中世～ルネッサンスの精神医療の歴史が理解できる			【評価方法について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	精神看護学概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有し、本校の副校長が授業を担当する。 患者-看護師関係の成立、発展について学びコミュニケーション技術を理解する。またリエゾンナース・災害時の精神保健医療活動を理解する。							
【到達目標】 1.ケアを目的としたコミュニケーションを理解する。 2.心理的側面に注目した援助を理解する。 3.災害時の精神保健医療活動を理解する。 4.ストレスマネジメントを理解する。 5.リエゾン精神看護を理解する。 6.援助関係の構築を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ情緒発達と精神看護の基本、精神障害と看護の実践				【授業外における学習】 事前にテキストや課題を行ってから講義に参加してほしい。医療情報について、社会の動向を常にキャッチする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 精神看護におけるコミュニケーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 コミュニケーション技法が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 精神看護におけるカウンセリング 【授業形態】 講義 【到達目標】 カウンセリング技法が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 心理的側面の理解 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ロールプレイングの実際が理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 災害時の精神保健医療活動 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 災害時の精神保健活動が理解できる。 心的トラウマ、初期対応				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 ストレスの対処 【授業形態】 講義 【到達目標】 ストレスマネジメントが理解できる。 ワークライフバランス、リラクゼーション				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 リエゾン精神看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 リエゾン精神看護が理解できる。 リエゾン精神看護、リエゾンナースの活動、コンサルテーション				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 援助関係の構築 【授業形態】 講義 【到達目標】 援助関係の構築が理解できる。 患者-看護師と関係の発展、プロセスレコードの活用				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。				【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。		
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	精神看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】 医師であり精神科治療に携わる講師が授業を担当する。社会生活に適応できない心の状態を、病気として分類し、病態、症状、治療について学ぶ。現代社会におけるさまざまな心の歪みにも目をむけ、看護師として同時に社会人として役立つようにする。							
【到達目標】 各精神疾患の病態、症状、治療、検査などを講義を通じて習得する。また、精神医療の歴史や、精神保健医療にかかる法制度などについても知識もあわせて習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版 精神障害と看護の実践　メディカ出版				【授業外における学習】 授業で習得した知識を、教科書・参考書等で復習することが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 精神障害の基本的捉え方、ライフサイクル 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神障害についての考え方を理解し、精神医療の変遷について説明できる。人間の成長発達を理解し、ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 統合失調症、気分障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 統合失調症および気分障害の基本的な病態、症状、治療を、説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 神経発達症、パーソナリティ障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経発達症(精神遅滞、自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動症など)およびパーソナリティ障害の基本的な症状、治療を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 神経症性障害、ストレス関連障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経症性障害、ストレス関連障害(パニック障害、強迫性障害、解離性障害、心的外傷後ストレス障害など)の基本的な病態、症状、治療を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 摂食障害、睡眠・覚醒障害、物質関連障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食障害、睡眠・覚醒障害(不眠症、ナルコレプシーなど)、物質関連障害(アルコール依存症、薬物依存)の基本的な病態、診断、治療が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 神経認知障害、身体疾患と精神症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経認知障害およびせん妄について、基本的な病態、症状、治療が説明できる。身体疾患に併発する精神症状を理解し、関連を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 精神科における治療、精神保健医療にかかわる法制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神科における代表的な薬物療法の作用と有害反応を理解し、主な治療法を説明できる。精神保健福祉法による入院形態や入院患者の処遇について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 精神疾患の基本的な病態、診断、治療を理解し、定着できている。精神科治療に必要な検査、治療法、法制度を理解し、定着できている。				【評価について】 評価は筆記試験と受講態度で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。各回での小テスト35点、筆記試験60点、受講態度5点の合計100%にて評価し、60%以上にて合格とする。		
【特記事項】							

科目名 (英)	精神看護学方法論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分	後期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】 精神科医として長きにわたり診療にあたっている講師が教授する。 社会生活に適応できない心の状態を、病気として分類し、病態、症状、治療について学ぶ。現代社会におけるさまざまな心の歪みにも目をむけ、看護師として同時に社会人として役立つようにする。							
【到達目標】 各精神疾患の病態、症状、治療、検査などを講義を通じて習得する。また、精神医療の歴史や、精神保健医療にかかる法制度などについても知識もあわせて習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 精神障害と看護の実践 メディカ出版				【授業外における学習】 授業で習得した知識を、教科書・参考書等で復習することが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 精神障害の基本的捉え方と精神医療の歴史 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神障害についての基本的な考え方を理解し、日本および欧米の精神医療の変遷について説明できる。			9	【授業単元】 物質関連障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 物質関連障害(アルコール依存症、薬物依存)についての基本的な病態、症状、治療を説明できる。		
2	【授業単元】 ライフサイクルとメンタルヘルス 【授業形態】 講義 【到達目標】 人間の成長発達を理解し、ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴を説明できる。			10	【授業単元】 パーソナリティ障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 パーソナリティ障害の定義を理解し、基本的な症状、治療を説明できる。		
3	【授業単元】 統合失調症 【授業形態】 講義 【到達目標】 統合失調症の基本的な病態、症状、治療を、説明できる。			11	【授業単元】 神経発達症 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経発達症(精神遅滞、自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動症など)の基本的な症状、治療を説明できる。		
4	【授業単元】 気分障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 気分障害(うつ病、躁うつ病)の基本的な病態、症状、治療を説明できる。			12	【授業単元】 身体疾患と精神症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体疾患に併発する精神症状を理解し、代表的な身体疾患(膠原病、糖尿尿、がんなど)と精神症状の関連を説明できる。		
5	【授業単元】 神経症性障害、ストレス関連障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経症性障害、ストレス関連障害(パニック障害、強迫性障害、解離性障害、心的外傷後ストレス障害、適応障害など)の基本的な病態、症状、治療を説明できる。			13	【授業単元】 精神科における検査、治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神科における検査と必要性を理解し、心理検査の種類と特徴を説明できる。代表的な薬物療法の作用と有害反応を理解し、主な社会療法、精神療法を説明できる。		
6	【授業単元】 心身症 【授業形態】 講義 【到達目標】 心身症の概念を理解し、代表的な心身症(過敏性腸症候群など)の病態、症状、治療を説明できる。			14	【授業単元】 精神保健医療にかかわる法制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神保健福祉法の基本的な考え方を理解し、精神保健福祉法による入院形態や入院患者の処遇について説明できる。		
7	【授業単元】 摂食障害、睡眠・覚醒障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食障害、睡眠・覚醒障害(不眠症、ナルコレプシー、呼吸関連睡眠障害など)の基本的な病態、診断、治療が説明できる。			15	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 精神疾患の基本的な病態、診断、治療を理解し、定着できる。精神科治療に必要な検査、治療法、法制度を理解し、定着できる。		
8	【授業単元】 神経認知障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経認知障害(アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症など)およびせん妄について、基本的な病態、症状、治療が説明できる。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は、定期試験にて評価し、評価は学則規定に準じる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	精神看護学方法論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と心構え】 精神科医、看護師の資格を有する教員が担当する。精神急性期症状、精神慢性期症状を理解したうえで、生活する上での問題を抽出し支援方法を理解する重要な回となる。							
1.精神障害のある対象の経過別看護について理解する。 2.精神の機能と障害を理解する。 3.主な精神症状に対する援助について理解する。 4.精神障害のある対象の看護過程の展開の能力を養う。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ情緒発達と精神看護の基本、精神障害と看護の実践				【授業外における学習】 事前にテキストや課題を行ってから講義に参加してほしい。医療情報について、社会の動向を常にキャッチする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 精神急性期症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神急性期の症状および対応が理解できる。 入院環境の整備、行動制限と援助			9	【授業単元】 看護過程の展開 【授業形態】 講義 【到達目標】 事例から情報を客観的に分析することができる。 日常生活の自立の程度		
2	【授業単元】 精神回復から慢性期 【授業形態】 講義 【到達目標】 回復から慢性期の治療と看護が理解できる。 薬物療法、電気療法			10	【授業単元】 問題の抽出 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題を明確にすることができる。		
3	【授業単元】 精神障害の症状① 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神障害に起こる症状が理解できる。 意識・知識・知能・知覚			11	【授業単元】 援助計画立案と目標設定 【授業形態】 講義 【到達目標】 目標の明確化と援助計画が立案できる。		
4	【授業単元】 精神障害の症状② 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神障害に起こる症状が理解できる。 思考・感情・意欲・記憶・認知			12	【授業単元】 レクリエーション計画 【授業形態】 講義 【到達目標】 レクリエーションの具体策が立案できる。		
5	【授業単元】 主な精神症状と支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 強迫行為の人への援助が理解できる。			13	【授業単元】 レクリエーションの実際 【授業形態】 講義 【到達目標】 計画に沿ったレクリエーションが実践できる。 発表、リフレクション、計画修正		
6	【授業単元】 主な精神症状と支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 抑うつ状態、躁状態のある人の援助が理解できる。			14	【授業単元】 経過別看護と看護援助 【授業形態】 講義 【到達目標】 一連の援助過程が理解できる。		
7	【授業単元】 主な精神症状と支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 幻覚、妄想のある人の援助が理解できる。			試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。		
8	【授業単元】 主な精神症状と支援 【授業形態】 修了認定試験・講義 【到達目標】 摂食障害、依存のある人の援助が理解できる。			【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	医療安全 (Patient Safety)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と心構え】 看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。看護業務には危険因子が常に隣り合わせである。潜在因子・顕在因子を明確にし、起こりうる危険を予測しあらかじめ回避できるように対策を講じなければ事故は発生する。ヒューマンエラーとともに自己の傾向を理解することで、事故回避ができるように意識して行動することを身につけていく。							
【到達目標】 1.看護業務と医療安全を理解する。 2.ハイリスク状況における事故防止を理解する。 3.医療事故発生時の対処法について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 看護実践マネジメント/医療安全(看護の統合と実践①)メジカルフレンド社 医療安全/看護の統合と実践②ナースングラフィカ 基礎看護技術/南江堂				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 医療安全と法制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療安全と法制度について理解できる。 看護業務の範囲と法的責任を理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 医療安全におけるコミュニケーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 適切なコミュニケーションが事故防止につながることを理解できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 リスクマネジメント 【授業形態】 講義 【到達目標】 看護におけるリスク因子とマネジメントの必要性を理解できる。 患者・環境・人的・時間・ヒューマンエラー			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 ハイリスク状況 【授業形態】 講義 【到達目標】 診療の補助におけるハイリスク状況が理解できる。 点滴・薬物、被爆、機械類、看護業務におけるタイムプレッシャー 多重課題、夜勤などの体調管理、知識不足による不安			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ハイリスク状況 【授業形態】 講義 【到達目標】 看護事故の起こりやすい状況が理解できる。 思い込み、作業の途中中断、指示の受け違い。 小テスト(20点)			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 医療事故発生時の対応 【授業形態】 講義 【到達目標】 チームでの共有や改善策の検討が理解できる。 報告・連絡・相談、チームカンファレンスでの共有 振り返りと事故防止策の実践 インシデント・アクシデントの分析			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 事例による事故防止 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療事故発生時の対応について理解できる。 事故事例の体験と検討 看護師の役割と事故回避について自己の傾向と確認 課題レポート提出(20点)			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
試験	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 講義・修了認定試験 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。(60点)			【評価について】 課題の提出(レポート)20点、小テスト20点、修了認定試験60点(知識・思考・主体的態度含む)を実施し評価基準に沿って行う。			
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。 予習、復習は勿論のこと、授業に主体的に取り組むこと。							

科目名 (英)	国際看護・災害看護 (Disaster nursing、international nursing)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	(1)	開講区分 曜日・時間	後期
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】 医師であり、海外での診療経験のある講師が授業を担当する。近年、多発する様々な災害の発生時に、医療従事者である看護師に求められるのは、災害に対応できる人材である。災害発生時に看護師として役割を担うためには、早期から災害状況に応じた看護について意識づけおよび訓練が重要である。看護において統合分野が新たに設定された当初から検討メンバーに加わり、また災害基幹病院で講義や訓練を受けた教員が、その体験をもとに授業を行い、さらに実践に近い形での演習も行う。すでに学んだ看護学等の内容を活用し、災害時に活かせるように学んでほしい。							
【到達目標】 災害看護は、専門職である看護師に求められている「人々の健康」と「生活の向上に向けた社会への支援」を基本とし、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術を習得する。また救護チームの一員として様々な職種との協働による救援活動や災害時の看護活動を円滑に行うための方法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 災害看護学・国際看護学 医学書院 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂				【授業外における学習】 既習の「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」などを復習することが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
	【授業単元】 災害医療に関する知識を深める。 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害に関する認識を深め、災害医療の基礎的知識を深めることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 災害時の医療の実際を知り、その役割の重要性を知る。 【授業形態】 講義・修了認定試験 【到達目標】 災害医療の実際を知り、多職種連携の重要性、看護の重要性を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 修了認定試験を実施し評価基準に沿って評価を行う。		
【特記事項】							

科目名 (英)	災害看護・国際看護	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Disaster nursing、international nursing)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	(1)	開講区分 曜日・時間	後期
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
看護師の資格を有する講師が担当する。近年、多発する様々な災害の発生時に、医療従事者である看護師に求められるのは、災害に対応できる人材である。災害発生時に看護師として役割を担うためには、早期から災害状況に応じた看護について意識づけおよび訓練が重要である。看護において統合分野が新たに設定された当初から検討メンバーに加わり、また災害基幹病院で講義や訓練を受けた教員が、その体験をもとに授業を行う。すでに学んだ看護学等の内容を活用し、災害時に活かせるように学んでほしい。							
【到達目標】							
災害看護は、専門職である看護師に求められている「人々の健康」と「生活の向上に向けた社会への支援」を基本とし、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術を習得する。また救護チームの一員として様々な職種との協働による救援活動や災害時の看護活動を円滑に行うための方法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
災害看護学・国際看護学 医学書院 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂				既習の「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」などを復習することが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 災害の種類と特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害の種類と定義を説明できる 災害サイクルについて説明できる 災害時要援護者について説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 災害医療の基本 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害医療の概要を説明できる 災害医療と救急医療の違いを説明できる 我が国における災害対策と災害救助活動について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 災害看護の定義と特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害看護の概要を説明できる 災害看護の基本と対応、体制が説明できる 災害時の国際協力について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 災害各期の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 災害各期の看護について説明できる 災害時の看護活動3Tについて説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 災害時の心のケア 【授業形態】 講義 【到達目標】 被災者の心理が理解できる(心理プロセス、心のトリアージ) 災害サイクルに応じた心のケアの必要性が考えられる 救援者の心のケアの必要性について考えられる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
【特記事項】							